

綿内遺跡群  
南条遺跡

2005年

長野市教育委員会

## 序

旧長野市域には、1,300余の遺跡が周知されています。なかでも千曲川の両岸には自然堤防が発達し、帯状に遺構密度の高い弥生時代以降の遺跡が複合して形成されるといった特色があります。綿内地域においても自然堤防が複雑に展開しており、近年櫻田遺跡や高野遺跡のような大規模遺跡が次々と調査されるようになりました。

一方、この地域は高速交通網の整備に伴って工業団地造成・土地区画整理事業等の各種の大型開発事業が進展しております。ここに至り上信越自動車道須坂長野東ＩＣに近接している地の利と運輸関係の需要の増加がみこまれることから、綿内北トラックターミナル造成事業が計画されました。

当初、開発事業地内が水田化していたために埋蔵文化財包蔵状況はほとんど知られていませんでした。現地踏査の結果、事業予定地の南側半分に平安時代を主体とする遺跡の展開が予想されるようになりました。そこで埋蔵文化財の保護協議にもとづき、開発事業に先立って平成8年度から10年度に発掘調査を実施し、記録保存をはかってまいりました。

本書はその成果を要約し、「長野市の埋蔵文化財第106集」として報告いたします。この報告書が地域古代史の解明や文化財保護の一助として、関係各方面に広くご活用いただければこの上ない喜びであります。

最後に発掘調査から報告書刊行にいたるまで公私にわたり、多大なご支援をいただいた関係各位の皆様に厚くお礼申しあげます。

平成17年12月

長野市教育委員会

教育長 立岩睦秀

## 例　　言

- 1 本書は、長野市商工部商工課が主管する総内北トラックターミナル造成事業に伴う緊急発掘調査報告書である。
- 2 調査は、主管課との保護協議にもとづき長野市教育委員会埋蔵文化財センターの直轄事業として実施した。
- 3 調査地は、長野市若穂緑内字南条327-1他・字大橋458-1他に所在する。
- 4 調査対象地は、将来トラックターミナル利用者の開発対応を考慮して、事業地内の遺跡推定範囲全域に設定した。事業面積82,210m<sup>2</sup>のうち調査実施面積は約10,100m<sup>2</sup>である。
- 5 調査の実施は、平成8年度が9月6日～12月27日、9年度が8月20日～3月26日、10年度が4月7日～10月12日である。総調査日数は521日間である。
- 6 本書は、発掘調査で検出された遺構・遺物を中心に、その基本資料を提示することに重点をおいた。
- 7 遺構測量は、平面直角座標第Ⅷ系の座標値と日本水準原点の標高を基準として、コーディックシステムを援用するため㈱写真測研研究所へ委託した。
- 8 木製品の保存処理ならびに樹種同定等は、平成9～12年度に㈱吉田生物研究所に業務委託した。保存処理方法は高級アルコール含浸処理法である。
- 9 遺構図は、1:80を基本とし、井戸址・土坑の一部を1:40、溝址を1:200で提示した。断面図における数値は標高(m)を表す。
- 10 本文および掲載図中、S B(住居址)・S K(土坑・井戸址)・S D(溝址)の略号をもちいた。
- 11 遺物図は、土器類・木製品・石製品・鉄製品が1:4、小型石製品・銅製品を1:2の縮尺で提示した。
- 12 遺跡の略号は「WWM」である。
- 13 調査によって得られた諸資料は、長野市埋蔵文化財センターで保管している。

## 目 次

序

例 言

目 次

I 調査の経過.....	1
1 調査に至る経過.....	1
2 調査.....	3
3 調査の体制.....	5
II 調査地周辺の環境.....	6
1 地理的環境.....	6
2 考古学的環境.....	8
III 試掘調査.....	12
IV 遺構と遺物.....	14
1 古墳時代の遺構と遺物.....	14
遺構・遺物実測図.....	14
溝址観察表.....	15
遺物観察表.....	17
遺物写真プレート.....	18
2 平安時代の遺構と遺物（A・B・C調査区）.....	20
遺構実測図.....	21
溝址観察表.....	32
火葬施設観察表.....	33
遺構写真プレート.....	34
遺物観察表.....	40
遺物写真プレート.....	56
3 平安時代の遺構と遺物（D調査区）.....	61
遺構実測図.....	61
溝址観察表.....	91
火葬施設観察表.....	94
遺構写真プレート.....	95
遺物観察表 .....	104
遺物写真プレート .....	144
V 結語 .....	155

報告書抄録

奥 付

## 挿 図 目 次

1図	調査区位置図	4
2図	調査位置図	6
3図	調査地周辺の字境図	7
4図	長野市防災基本図地形分類図	8
5図	綿内遺跡群と遺跡範囲推定図	9
6図	綿内遺跡群調査遺跡位置図	10
7図	試掘坑位置図	12
8図	A区遺構位置図	14
9図	A S B37(1:80)・A区溝跡(1:200) A S K13・A S D26・27出土器(1:4)実測図	15
10図	A S B37出土土器実測	16
11図	A・B・C調査区遺構分布図	21
12図	B S B1・2・4・6・9実測図	22
13図	B S B3・7・8・10実測図	23
14図	A S B11・13・15・18・19・21実測図	24
15図	A S B12・14・16・17・20、C S B26・27、A S K8実測図	25
16図	A S B22・23、C S B28・29実測図	26
17図	C S B25、A S B30・32・34・37実測図	27
18図	A S B33・35・36・38、B S K3・5、C S K7・17・14・19実測図	28
19図	A S T1・2(1:40)、C S D21・24(1:200)実測図	29
20図	C S T3・4(1:40)、A S K12・22(1:20)実測図	30
21図	A S K12・22構築想定図	31
22図	B S B1・5・7・8出土土器実測図	40
23図	B S B6・9出土土器実測図	41
24図	B S B10、A S B11・14・15出土土器実測図	42
25図	A S B16・18・20・23出土土器実測図	43
26図	A S B19・22・24出土土器・石製品実測図	44
27図	C S B25・28、A S B32出土土器実測図	45
28図	A S B30・33・34・36・38、A S K7、 C S D21出土土器(1:4)・銅製品(179のみ1:2)実測図	46
29図	C S D22・24、A S D25出土土器実測図	47
30図	A S K12(井戸址)出土木製品・土器実測図	48
31図	A S K12(井戸址)出土木製品実測図	49

3 2 図	A S K 22(井戸址)出土木製品・土器・土製品実測図	50
3 3 図	D 調査区住居址分布図	61
3 4 図	D 調査区掘立柱建物址分布図	62
3 5 図	D 調査区井戸址・土坑分布図	63
3 6 図	D 調査区溝址分布図	64
3 7 図	D S B 1~5・11実測図	65
3 8 図	D S B 7~9・12・14・15実測図	66
3 9 図	D S B 6・13・17実測図	67
4 0 図	D S B 16・21~25実測図	68
4 1 図	D S B 19・20・26・27実測図	69
4 2 図	D S B 28~31・36実測図	70
4 3 図	D S B 32・33・34(99)・35実測図	71
4 4 図	D S B 37~40・43実測図	72
4 5 図	D S B 41・42・44~46・54実測図	73
4 6 図	D S B 47~50・53・55・56実測図	74
4 7 図	D S B 51・57・58実測図	75
4 8 図	D S B 52・59~62実測図	76
4 9 図	D S B 63~65・69・77実測図	77
5 0 図	D S B 66~68・78実測図	78
5 1 図	D S B 70~72・74~74実測図	79
5 2 図	D S B 79・81・83・89・106実測図	80
5 3 図	D S B 80・82・84・86~88実測図	81
5 4 図	D S B 85・90~93・95実測図	82
5 5 図	D S B 94・97・98実測図	83
5 6 図	D S B 96・100~102、D S T 1~5実測図	84
5 7 図	D S T 2~4実測図	85
5 8 図	D S T 3~10実測図	86
5 9 図	D S T 6~9実測図	87
6 0 図	D S T 7~8~11実測図	88
6 1 図	D S K 3~5~7~9~11~14~16実測図	89
6 2 図	D S K 12~13~17~18実測図	90
6 3 図	井戸址模式図(千野作成)	90
6 4 図	D S B 1~2~4~6~8~10出土土器実測図	104

6 5 図	D S B 7・9・11・12・15 出土土器実測図	105
6 6 図	D S B 13・14・16~19・22・23 出土土器・石製品実測図	106
6 7 図	D S B 20・25~30・32 出土土器実測図	107
6 8 図	D S B 31・33 出土土器実測図	108
6 9 図	D S B 34~37 出土土器・土製品実測図	109
7 0 図	D S B 38・39・41~43・45~47 出土土器実測図	110
7 1 図	D S B 44・50・52・53 出土土器実測図	111
7 2 図	D S B 51・54・55 出土土器実測図	112
7 3 図	D S B 56~59 出土土器実測図	113
7 4 図	D S B 60~66・69・71・74~78 出土土器実測図	114
7 5 図	D S B 67・70・79 出土土器・鉄製品実測図	115
7 6 図	D S B 76・80・82・83 出土土器実測図	116
7 7 図	D S B 84・86・88・90・92 出土土器実測図	117
7 8 図	D S B 94~96・98 出土土器実測図	118
7 9 図	D S B 99~101・103・104・107 出土土器実測図	119
8 0 図	D S B 20・105・106 出土土器実測図	120
8 1 図	D 区土坑出土土器実測図	121
8 2 図	D 区溝址出土土器・石製品・土製品実測図	122
8 3 図	D 区溝址出土土器・石製品・土製品実測図	123
8 4 図	D 区溝址出土土器実測図	124
8 5 図	D 区検出面出土土器実測図	125
8 6 図	D 区検出面出土土器・石製品・鉄製品実測図	126
8 7 図	D S K 3 (井戸址) 出土木製品実測図	127
8 8 図	D S K 11 (井戸址) 出土木製品実測図①	128
8 9 図	D S K 11 (井戸址) 出土木製品実測図②	129
9 0 図	D S K 8 (井戸址) 出土木製品実測図	130
9 1 図	北壁カマド住居址分布図 (A形態)	156
9 2 図	東壁カマド住居址分布図 (B形態)	156
9 3 図	南壁カマド住居址分布図 (C形態)	157
9 4 図	西壁カマド住居址分布図 (D形態)	157
9 5 図	大溝分布図	157

# I 調査の経過

## 1 調査に至る経過

綿内北トラックターミナルの造成事業は須坂市境の長野市若穂綿内字南条・字大橋地籍に計画されたもので、この計画による試掘調査に至るまで圃場整備の進展と開発事業がこの地までおよばなかったことにより埋蔵文化財の存在が不明の地域であった。ただし、西に隣接する字牛池地籍から古墳・平安時代の土器片が採集されており牛池遺跡として、南に接続する字島地籍では弥生・平安時代の土器片が出土しており島遺跡として周知されていることにより、埋蔵文化財の包蔵地の可能性を秘めていた。

造成事業の用地買収の進展や計画の具現化により、平成7年11月22日付の試掘調査依頼書の提出を受け、現地踏査・試掘調査を実施するはこびになった。調査の結果、事業地の一部が埋蔵文化財包蔵地であることが判明し、地形的に窪地を挟み牛池地籍と分離して別の遺跡と考えた方が遺跡内容を把握するのに有効と思料された。ちなみに、綿内北トラックターミナル造成総事業面積は82,210m<sup>2</sup>におよび、国道403号を挟み北側の第I工区が53,090m<sup>2</sup>、南側の第II工区が29,120m<sup>2</sup>の規模になる。この内遺跡面積（調査対象面積）は第I工区が平成8年度分3,500m<sup>2</sup>、第II工区が9・10年度調査対象6,600m<sup>2</sup>の総面積10,100m<sup>2</sup>である。以下、日を追って事務経過を記述する。

### [平成7年度]

11月22日付 商工部商工課長より試掘調査の依頼がある。

12月7日 試掘調査を実施する。平安時代の遺構・遺物を確認する。8日付「埋蔵文化財確認調査概要書」を提出する。

3月6日付 都市開発部土地管理課長より、商工課の依頼により若穂地区でトラックターミナル造成事業の計画があり、埋蔵文化財保護協議の要請がある。

3月13日 現地視察・保護協議を実施する。遺構面までの深さが浅いものと予想されるため、開発事業の内容から遺跡範囲の全面調査を進言する。

3月28日付 商工課長からの埋蔵文化財発掘調査依頼書を受理する。

### [平成8年度]

4月8日付 長野市長塙田 佐より、文化財保護法（以下「法」）第57条の3第1項の規定に基づく埋蔵文化財発掘の通知がある。10日付 長野県教育委員会（以下「県教委」）教育長宛達達する。

4月25日付 県教委教育長より「周知の内蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」がある。

6月21日付 法98条の2第1項の規定に基づく埋蔵文化財発掘調査の通知書を県教委教育長宛提出する。

7月8日 重機賃借に伴う5社による指名競争入札を実施し、一城建設㈱に決定する。10日付 賃貸借契約書を締結する。

9月6日～12月27日 発掘調査を実施する。調査面積3,500m<sup>2</sup>・調査期間113日である。

9月25日付 撮写真調査研究所と遺構測量等委託契約書を締結する。

1月9日付 発掘調査終了届・埋蔵物発見届・埋蔵文化財保管証を関係機関に提出する。

### [平成9年度]

5月12日付 商工課長より埋蔵文化財発掘調査依頼書の提出がある。

6月30日付 出土木製品保存処理業務委託契約書を柴吉田生物研究所代表取締役吉田秀男と締結する。

8月15日付 重機等賃貸借契約書を随意契約により事業受注者新東建設㈱と締結する。  
8月20日～3月26日 発掘調査を実施する。調査面積2,100m<sup>2</sup>・調査期間219日である。  
9月1日付 法98条の2第1項の規定に基づく埋蔵文化財発掘調査の通知書を県教委教育長宛提出する。  
9月2日付 法第57条の3第1項の規定に基づく埋蔵文化財発掘の通知がある。同日付 県教委教育長宛進達する。

9月19日付 県教委教育長より「周知の内蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」がある。  
1月16日 出土木製品保存処理業務委託契約書を随意契約により㈱吉田生物研究所と締結する。処理方法は高級アルコール含浸処理法である。  
1月19日付 ㈱写真測図研究所と遺構測量等委託契約書を締結する。  
3月30日付 法第57条の3第1項の規定に基づく埋蔵文化財発掘の通知がある（第Ⅱ工区分）。4月1日付 県教委教育長宛進達する。

#### [平成10年度]

4月1日付 重機等賃貸借契約書を新東建設㈱と締結する。  
4月7日～10月12日 発掘調査を実施する。調査面積4,500m<sup>2</sup>・調査期間189日である。  
4月6日付 法98条の2第1項の規定に基づく埋蔵文化財発掘調査の通知書を県教委教育長宛提出する。  
4月21日付 県教委教育長より「周知の内蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」がある。  
7月22日付 ㈱写真測図研究所と遺構測量等委託契約書を締結する。

8月20日 現地説明会を開催する。記帳者54名。

11月11日付 出土木製品保存処理業務委託契約書を㈱吉田生物研究所と締結する。  
11月24日付 発掘調査終了届・埋蔵物発見届・埋蔵文化財保管証を関係機関に提出する。

#### [平成11年度]

2月8日付 出土木製品保存処理業務委託契約書を㈱吉田生物研究所と締結する。

#### [平成12年度]

3月1日付 出土木製品保存処理業務委託契約書を㈱吉田生物研究所と締結する。



調査地遠景（南より）  
中央の道路は上信越自動車道（左 更埴IC、右 上越方面）

## 2 調査

発掘調査は造成工事工程と排土集積場の確保等により、平成8年度においては国道403線より北側にA・B・Cの3調査区を設定した。国道403号から長野電鉄河東線の調査区をD区として平成9・10年度に発掘調査を実施した(1図)。基本的にこれらは一つの遺跡と考えるべきであろうが、遺構番号等に混乱の恐れがあるので前・後者分離して記載することにした。

### 【平成8年度】

発掘調査は9月6日から12月27日にかけて実施し、実質稼働日数は62日である。調査面積は約3,500m<sup>2</sup>である。調査では古墳時代住居址1軒・溝址5条、平安時代住居址36軒・井戸址2基の他多数の溝址・土坑を検出している。調査地(C区)の北側は低湿地へと落ち込みが確認され、南条遺跡の北限にあたる。本年度の調査で特徴的なことは2基の井戸址検出である。調査地の中央付近に位置し、共に丸太材を削り抜き井筒としている。特に12号土坑(井戸址)は廃絶に伴い多量の木製品が投棄されており、平安時代における井戸廃絶祭祀行為のあったことをうかがわせる。

### 【平成9年度】

D区北側半分程の約2,100m<sup>2</sup>が本年度の調査対象地である。発掘調査は8月20日から3月26日まで断続的に実施し、実質稼働日は70日である。検出遺構の密度が前年度調査区よりも高い。平安時代住居址45軒・掘建柱建物址7棟・井戸址7基・溝址7条等を検出した。

### 【平成10年度】

D区の南側の約4,500m<sup>2</sup>ほどが本年度の調査対象地である。発掘調査は4月7日から10月12日にかけ、実質82日稼働した。本年度の検出遺構は番号を付したもので平安時代住居址61軒・掘建柱建物址4棟・土坑12基(内10基が井戸址と推定される)他多数の土坑・小穴を検出した。この他に浅い大溝状遺構を確認した。北側調査区よりも遺構の分布密度が高く、重複関係にある住居址も多く、遺構番号を付してない竪穴状遺構もみられ、集落跡の中心部の様相がうかがわれる。D区における主要遺構の総数は住居址101軒・掘建柱建物址11棟・井戸址11基にのぼる。



D区の調査



DS K3 (井戸址) の調査



1図 調査区位置図 (1:2,500)



## A区の調査



D区の調査

### 3 調査の体制

長野市域における埋蔵文化財の保護については、学術調査および史跡等の保護保存にかかる調査は長野市教育委員会社会教育課（機構改革によりH11文化課、H16文化財課に改称）が担当し、開発行為に対応する緊急発掘調査は埋蔵文化財センターの直轄事業として実施している。

平成16年度には教育委員会事務局の機構改革に伴う文化財課の設立により、文化財課埋蔵文化財センターとして機能していくことになった。調査から報告書刊行に至るまでの組織・業務分担は以下のとおりである。

調査主体者	長野市教育委員会教育長 滝澤忠男（～H10）・久保 健（H10～13）・立岩謙秀（H14～）
総括管理者	副参事兼埋蔵文化財センター所長 中島昌之（H11）・磯野久夫（H15）
	埋蔵文化財センター所長 丸田修三（～H9）・小林重夫（H10）・磯野久夫（H12～15）
	文化財課長 塩澤一郎（H16）・北村真一郎（H17）
庶務係（担当）	所長補佐兼庶務係長 小林重夫（H9主幹）・宮澤秀幸（H10）
	係長 北村実寛（H11～13）・山岸恒雄（H14～16）・宮沢和雄（H17）
	職員 青木厚子（～H14）・吉村久江（H15～）
調査係（担当）	所長補佐兼調査係長 矢口忠良（H15局主幹兼所長補佐・H16兼所長、報告書編集）
	主査 青木和明（H10社会教育課異動兼務、H15調査担当係長・事前協議・試掘調査）
	主査 千野 浩（H14係長・H15文化課異動兼務、主任調査員）
	主事 飯島哲也（H12主査～16。H17文化財課異動）・風間栄一（H16主査）・小林和子（H17主査）・宿野隆史（H17）
	専門主事 清水 武（～H9）・荒木 宏（H10～H12）
	専門員 中殿章子（～H13）・山田美弥子（～H13）・西沢真弓（～H14）・小野由美子（～15）・堀内健次（～H16）・藤田隆之（～H13、調査員）・勝田智紀（H8）・宮川明美（H8～15）・小林まゆ佳（H8～H11）・清水竜太（H10～、調査員）・内山 梓（H13・14）・山下大輔（H14）・遠藤恵実子（H14～）・長瀬 出（H15～）・山野井智子（H15～）・藤原崇志（H15）・石丸教史（H16～）・小出泰弘（H16～）・森田利枝（H16～）・宮沢浩司（H16～）・山岸千晃（H16～）・加藤拓也（H17）

【整理調査員】 青木善子・池田寛子・鳥羽麗子・多羅沢美恵子・武藤信子・矢口栄子

【発掘作業員】 小山周一・北島久美子・鈴木友江・小山弘子・徳島勤子・峰村頼子・牧ミユキ・牧 一誠・牧千代子・中村茂子・岡沢和子・滝澤房江・石田美津子・関川愛子・前角高枝・美谷島昇・岩崎寛治郎・岩崎利子・辰野正治・村橋寿美男・中村忠彦・橋爪正明・長橋喜一郎・名取正秋・小宮山武男・小林幸雄・大塙 満・込山君雄・鈴木 良・松本明子・峯村 誠・一色茂喜・大塙美子・小林信子・駒村きよ子・丸山一代・池田賢二・橋爪孝次・北村宣之・林 栄男（順不同）・岡沢治子・倉島敬子・小泉ひろ美・関崎文子・田中はま江・田中むつ子・塚田容子・徳成奈於子・富田景子・西尾千枝・松沢ナオエ・三好明子・村松正子・清水さゆり

## II 調査地周辺の環境

### 1 地理的環境

千曲川の右岸は火山性の山地がそびえ立ち、その支脈の尾根は千曲川の沖積地に突出し、山麓に大小の渓入部を形成する。その大きな山間部では、南から藤沢川や蛭川・神田川による松代扇状地、若穂保科から川田地域にかけて保科川と赤野田川による保科扇状地、須坂市域では鮎川や百々川による広大な須坂扇状地が発達しているという特色がある。もちろんこれらに挟まれた小湾入部にも小規模な扇状地形をみることができる。扇状地先端の平坦地では旧千曲川の流路や河川敷となり自然堤防・後背湿地を形成するが、上流域の篠ノ井地域・松代町清野・東寺尾地域のような連続して広域に展開しない。また、千曲川左岸の川中島扇状地先端部の北側から下流域には顕著な自然堤防等はみられないし、遺跡が確認されていないことから時期的に新しい地形形成と推測される。

犀川は西部山地を横断して東流し、V字谷から開放され長野盆地に至り広大な扇状地をつくりだす。これが川中島扇状地で南は篠ノ井塙崎の軒良根古神社、北は屋島橋付近まで影響を及ぼしており、犀川右岸約50km・左岸約20kmの面積になる。扇頂部の犀口地籍から東の千曲川と合流する落合橋まで直線距離にして9.9kmで、その比高差は40mを測り、急勾配で堆積土量の多さが指摘できる。この犀川による堆積力の優位性は、千曲川を右岸の上信越山塊の山脚部まで押さえ込み、千曲川により山脚尾根先端は浸食を受けている。扇状地形が一段落すると犀川の堆積土量は徐々に減少するようになる。これにつれ千曲川も山脚部から離れて扇状地端部を浸食し、自然堤防と後背湿地・氾濫平野を形成するようになる。ここで注意しなければならないことは、川中島扇状地の形成時の問題が近年浮上してきたことである。徳長野県埋蔵文化財センターが実施した上信越自動車道建設に伴う発掘調査で、地表下約4mのところから繩文時代中期の遺跡が発見されたことによる。今までの調査所見から盆地沖積面への繩文時代人の進出は晩期からであり、それも小規模で短期的なものと考えられてきた。しかし、遺跡の存在は少なくとも5000年前頃には犀川の堆積土による千曲川への影響はほとんどなかった可能性を裏付ける事象となった。その後、東寺尾地籍の松原遺跡に人々の痕跡が認められるようになるのは弥生時代中期まで待たな



2図 調査位置図 (1 : 50,000)

ければならない。この推論が正しければ川中島扇状地の形成は縄文時代中期以降のことになる。若穂地域の自然堤防や後背湿地もこの頃以降からつくられたものと考えられ、以外に若い地形であることをうかがわせる。すなわち、犀川と千曲川の合流点は綿内万年橋西方にあり、対岸の大豆島から犀島にかけて自然堤防や氾濫平野がみられるものの遺跡の確認はない。綿内の自然堤防上に遺跡が形成された頃、犀川は北の裾花川扇状地端部をえぐるように流下していた可能性が高い。それ故に千曲川左岸の自然堤防の形成は不安定でより新しいものといえ、これに対し綿内の自然堤防や後背湿地は安定期を迎えていたものと思われる。

一方、綿内地域の地形および地目利用は、自然堤防上では「町・島」の字名を付ける集落・畠・果樹園が、旧河道や後背湿地・氾濫平野では「沢・田・池」の字名をもつものが多くみうけられる。残念なのは圃場整備が進み後背湿地内に残された中州状の自然堤防地形が失われてしまったことである。地図上で見る後背湿地内に展開する複田遺跡はもともとは微高地上の遺跡の可能性が高い。綿内地域には水田可耕地を潤す河川はみあたらず、旧河道に沿って幾つかの堰が開削されている。長池地籍の周辺では矢原地区で保科川から導水し、川田字堤南の湧水を利用している。菱田から森地区にかけては八田川が流下し、複田から須坂市井上にかけての後背湿地や氾濫平野の灌漑には清水地区の東勝池湧水による権五郎川（東勝寺堰）から引水されている。裏を返して調査地周辺の古代における生産基盤を考える時に、これらの集合としての水利、分けても権五郎川の機能が大きかったものと考えられる。



3図 調査地周辺の字境図（長野市地名研究所作成「長野市字境図」より）

## 2 考古学的環境

綿内地域の遺跡は少なく、11遺跡が周知されているにすぎない。縄文時代の大柳遺跡・仁王堂遺跡が崖間に立地するほかは山麓を含めて平地に散在し、弥生時代以降の遺跡である。春山の自然堤防上には上信越自動車道建設に伴い発掘調査された春山B遺跡がある。弥生時代住居址40軒および方形周溝墓18基等が確認され、所見から集落廃絶後墓域として機能していたようである。古町・芦町・麦在家・高野・町田・八王子・森・榎田・島・笠木・大橋・南条・牛池の一帯は比較的規模の大きな集落跡が展開しているものと予想され、綿内遺跡群と呼称されている。周知されている地点遺跡に古町・南条・島・榎田の各遺跡がある。上流域の田中地区に春山B遺跡に接して長池遺跡が、旧河道による中州状微高地には岩崎遺跡・菱田遺跡がある。このうち発掘調査歴のあるものは前記した春山B遺跡を除いて以下のとおりである。

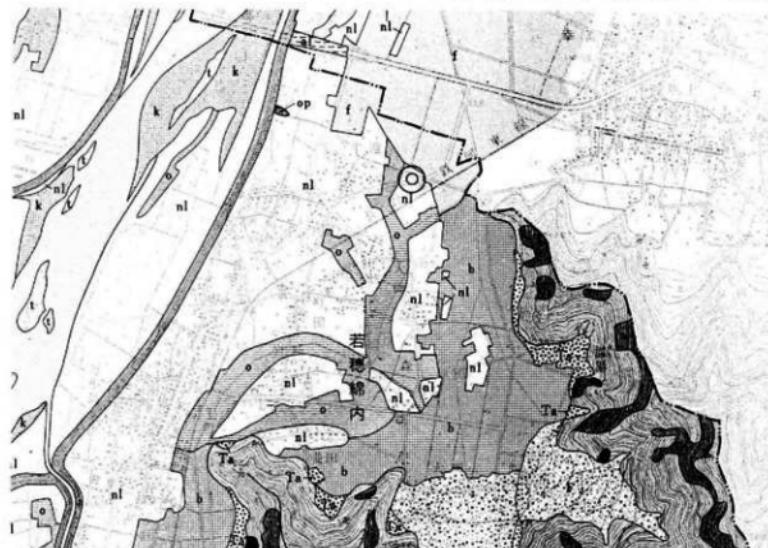
### 【岩崎遺跡綿内保育園地点】

平成3年保育園舎改築に伴う発掘調査で、平安時代の住居址3軒・土坑6基・土壙墓2基・溝址1条・小穴が確認されている。遺物には墨書き土器・綠釉陶器・青銅製巡方等が出土している。

### 長野市教育委員会『岩崎遺跡』 平成5年

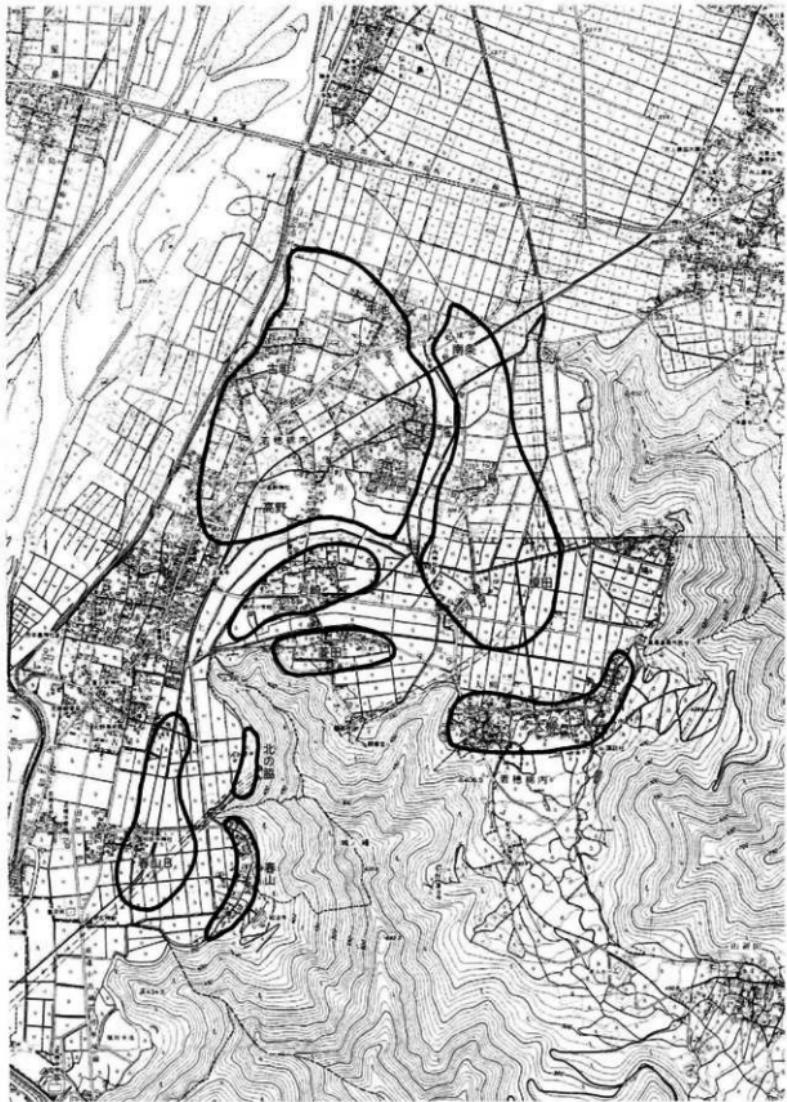
### 【古町遺跡流入塚】

古町遺跡は町・芦町・牛池にかけての千曲川の自然堤防上に展開する弥生時代から平安時代の集落遺跡と考えられている。昭和54年下水道工事のさい平安時代の土師器・須恵器が採集され、56年の道路工事によって土師器・



n 1 自然堤防 b 後背湿地 o 旧河道 f 沩溢平野 F 扇状地

4 図 長野市防災基本図地形分類図 (1 : 25,000)



5図 織内遺跡群と遺跡範囲推定図（1:20,000）



須恵器・布目瓦が出土している。流入塚の発掘調査は綿内町区土地区画整理事業に伴うもので、平成4年に実施した。墳丘は長軸5.7m・短軸4.7m・現地表面からの高さ86cmを測る小規模なものである。平安時代末から中世初頭の集石造構を基礎に後世周辺の石が集められて墳丘化したものとみられる。集石造構の東斜面に鎌倉時代から室町時代と推定される5基からなる火葬墓群が検出されている。遺物は古代から現代まで各期の土器・陶磁器片が出土しており、器種には古瀬戸把手付水注・青磁碗・珠洲描鉢等がある。

長野市教育委員会『古町遺跡流入塚』 平成5年

[榎田遺跡]

上信越自動車建設に伴い平成元年から4年度にわたって発掘調査が実施された。弥生時代中期から近世に至る複合遺跡である。45,500m<sup>2</sup>が調査され、住居址1,115軒余が検出されている。特に古墳時代中期・後期を主体に893軒の住居址が確認されており、長野盆地では突出する遺構数である。これに対し、奈良・平安時代の住居址は40軒余にすぎなくなる点も注意される。遺物では弥生時代中期における磨製石斧の生産地ともくされ、石器製作関連資料が大量に出土している。第3号溝址からは各種鍛鉋・鋤・えぶり・田下駄・木槌・堅杵等の農具、かせい・たたり等の紡織具、扉・梯子・梁・杭等の建築材、鞍や鐘等の馬具の他に各種馴り物・曲物類・弓や箭・腰掛け・鳥形木製品等の各種多様の木製品が出土している。

長野県教育委員会他『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書12 榎田遺跡』 平成11年

[高野遺跡]

岩崎遺跡の旧河川路をはさんで北の対岸に位置し、千曲川の自然堤防上の遺跡である。平成8・9年に発掘調査を実施した。調査の起因は綿内中央土地区画整理事業によるもので、調査面積は12,700m<sup>2</sup>に及ぶ。遺跡の始源は弥生時代後期からで、古墳時代後期に大きな断絶があるものの平安時代までの複合集落遺跡である。住居址は総数295軒確認され、時代別内訳は弥生時代後期51軒・古墳時代前期10軒・同後期8軒・奈良時代13軒・平安時代213軒である。この他の遺構として奈良・平安時代の掘立柱建物3棟・柱穴群2か所・井戸址3基・土壙墓11基・火葬施設6基・小鐵冶址7基・土坑53基(含弥生7・古墳8)・溝址26条(含弥生5)が確認されている。調査は区画整理事業地内の道路敷を対象(9,100m<sup>2</sup>)としたため全面では倍以上の数値になるものと思われる。本遺跡の主体時期が弥生時代後期と平安時代に求められ、前述の榎田遺跡の内容と大きな相異がみられる。遺物には土器・陶器類の他に青銅製造方・羽口・刀子・鎌・鐵鍬・砥石・管玉等がある。

長野市教育委員会『綿内遺跡群高野遺跡』 平成11年

[岩崎遺跡綿内小学校地点]

平成6年にプール地点、12年体育館地点を改修に伴い発掘調査をした。プール地点からは奈良時代の2棟の掘立柱建物・8条の溝址と小穴を検出したが、住居址等の居住施設は確認されない。居住域周縁部の遺構の在り方をしめていている。

体育館地点からは住居址22軒の住居址・5基の井戸址・86基の土坑・20条の溝址を検出した。住居址のうち1軒と数基の土坑は中世に比定されるものである。隣接する高野遺跡では弥生時代後期から遺構の展開をみせるが、本遺跡では奈良時代に至って居住域が確立する。中州状微高地が安定期に入つてからの古代人の拡散を意味するものと思われる。平安時代では9世紀中頃から10世紀代まで集落が形成されるが、高野遺跡のような遺構密集の高まりをみせず、むしろ高野遺跡を母村とすれば枝村的な存在である。中世では土器皿や龍泉窯青磁碗・白磁碗・珠洲描鉢・山茶碗等が出土しており、12世紀後半から13世紀に年代が求められる。

長野市教育委員会『川田氏館跡・岩崎遺跡』 平成13

### III 試掘調査

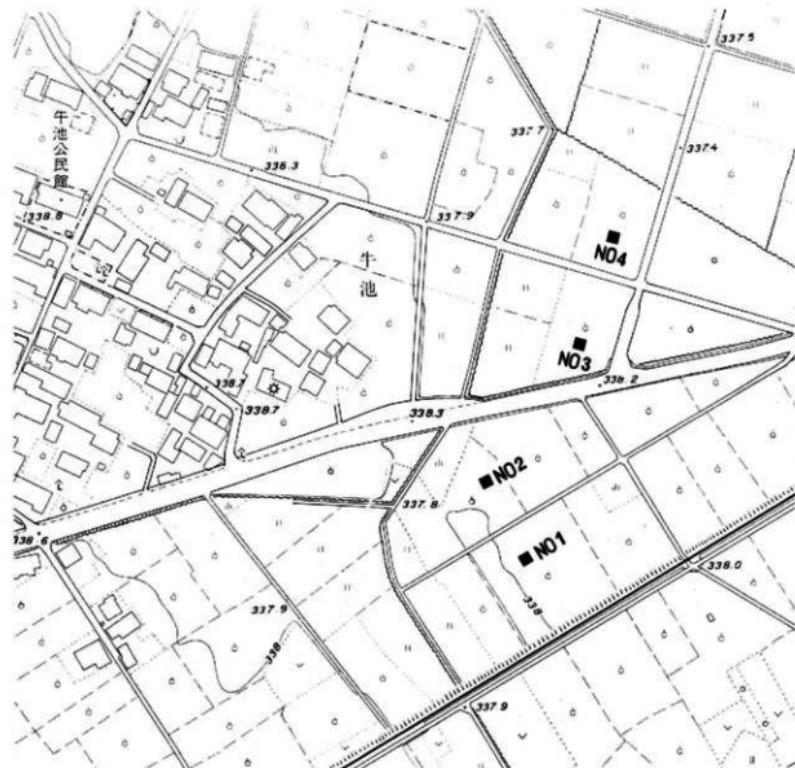
平成7年11月22日付 商工部商工課長の「試掘調査依頼書」に基づく試掘調査の結果を報告した「概要書」から以下転載する。

1 調査の目的 総内北トラックターミナル造成事業予定範囲の一部は、周知の埋蔵文化財包蔵地範囲内に入っているもののその実体は不明である。そのため埋蔵文化財包蔵状態を試掘により調査確認して保護措置にそなえる。

2 調査年月日 平成7年12月7日

3 調査の方法 地形的な条件をかんがみて埋蔵文化財の包蔵が予想される任意の地点に試掘坑を設定し、埋蔵文化財の包蔵の有無およびその深さを確認する。

4 調査結果 設定した4か所の試掘坑（7図）での土層堆積状態は次のとおりである。



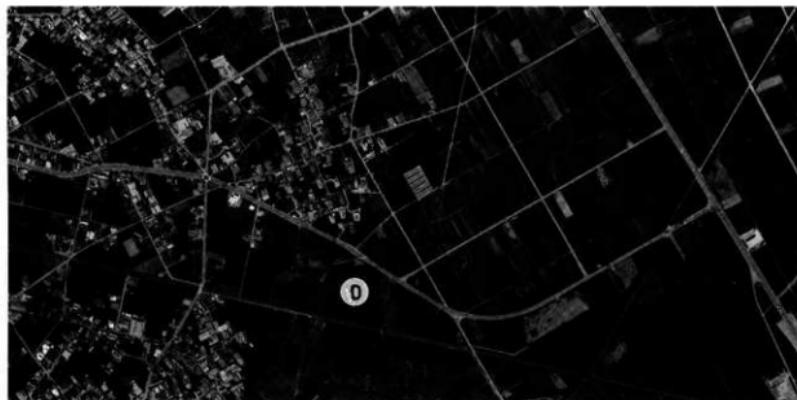
7図 試掘坑位置図 (1 : 2,500)

No 1 地点	I 現代耕作土層（果樹園）	地表～15cm
	II 褐色土層（耕作による擾乱）	15～45cm
	III 灰褐色土層（平安時代住居址）	45～ cm
No 2 地点	I 現代耕作土層（果樹園）	地表～15cm
	II 褐色土層（耕作による擾乱）	15～50cm
	III 黒褐色土層（遺物包含層）	50～60cm
	IV 黄褐色粘質土層（基盤層）	60cm～
No 3 地点	I 現代耕作土層（果樹園）	地表～15cm
	II 褐色土層（耕作による擾乱）	15～40cm
	III 灰褐色土層（平安時代住居址）	40～80cm
	IV 黄褐色粘質土層（基盤層）	40cm～
No 4 地点	I 現代耕作土層（果樹園）	地表～15cm
	II 褐色土層（耕作による擾乱）	15～35cm
	III 黄褐色土層	35～75cm
	IV 灰褐色粘質土層（有機質含）	75～90cm
	V 黄褐色粘質土層（基盤層）	90cm～

3か所において遺構・遺物の存在が確認され、埋蔵文化財の包蔵があきらかになった。包蔵位置は地表下40～50cmにある。堆積活動の活発な自然堤防上での埋没位置としては予想に反して浅い位置といえる。土層の堆積状態は細砂・シルトによる土壤構成が主体であるが、No 4 試掘坑においてはIV層の灰褐色粘質土が新たに出現するなど湿地への移行を思わせるものがある。

以上の所見および設定した試掘坑から高い確率をもって遺構が確認された点から、造成予定範囲内には平安時代を主体とする各種遺構が高密度に分布している可能性を指摘できる。

5 保護措置 当該開発事業予定地に関しては、土木工事の着手に伴い埋蔵文化財への影響が懸念されます。継続して協議の上、埋蔵文化財保護について配慮をいただきたい。



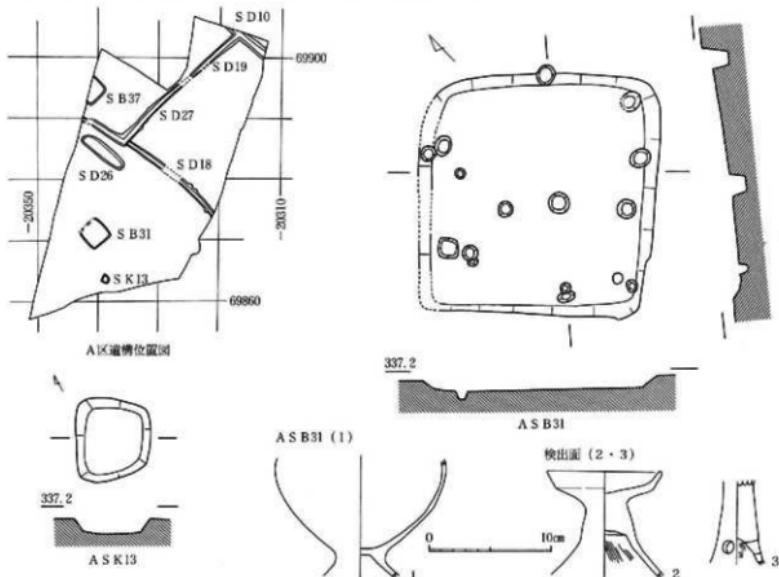
調査地周辺の航空写真（平成2年6月撮影、株ジャスダック）

## IV 遺構と遺物

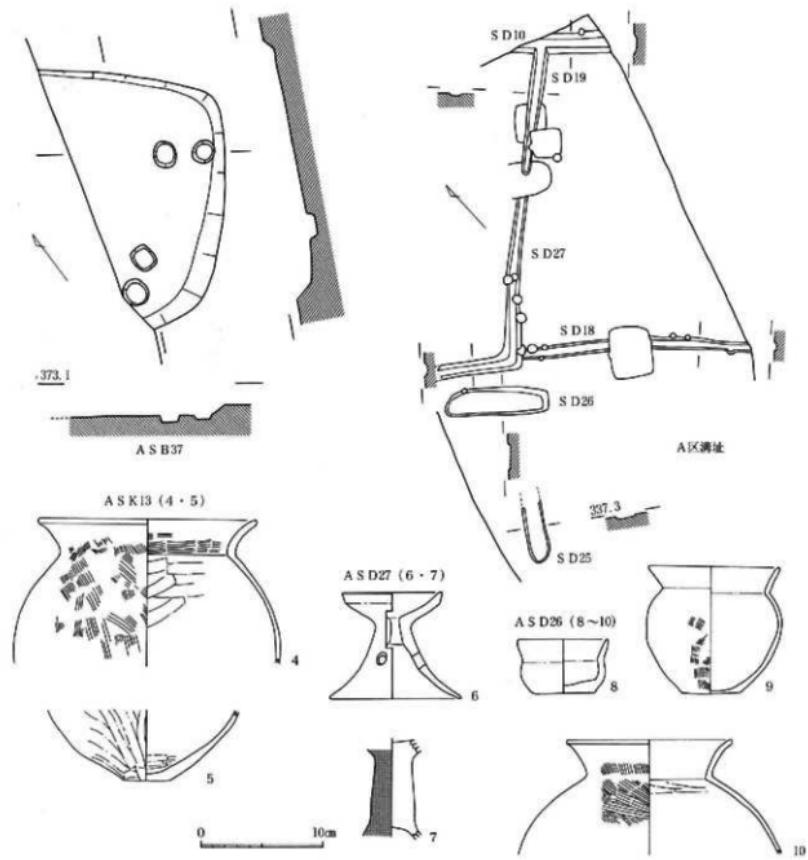
### 1 古墳時代の遺構と遺物

当該期の遺構と遺物はA調査区だけに限定して確認された。それも古墳時代前期に所属するものだけである。遺構は住居址・溝址・土坑が検出されており、その分布は点在的なあり方をしめす。住居址とみられる掘り込みはS B31と37の2遺構が確認されている。共に隅丸方形を呈し、一辺が4m前後の小型のものである。住居機能に必要な炉の確認が共になく、S B31には小屋組配列をなす柱穴がみあたらない。S B37では柱穴とみられる小穴が検出されているが、壁との間隔が同一でなく規格性に問題がのこる。この点を考慮すると堅穴状遺構と称するのが妥当であるかもしれない。この両住居址間にS D26と27の一部がある。共に当該期の遺物を内包していた。S D27は直角に屈曲する溝でS D19と直線的に接合し、さらにS D10と直交する。また、S D18はS D27よりも浅いもののこれに直交し、S D27の南側屈曲溝と直線関係にある。これらの溝は当該期の遺物の出土はみられなかったものの、平安時代の遺物も認められることから同時期に機能していた遺構とみてよいだろう。当該期の遺物を出土する土坑が1基確認している。調査地の南端に位置する。溝址や土坑の性格は不明であるが、集落的にみれば2から3軒単位の小規模なものが予想される。

遺物の出土量はS B37を除き少ない。S B37出土の土器はもとの形態を留めておらず、すべて破片状態での出土であった。床面からも浮いており、投棄されたものと考えられる。



8図 A区遺構位置図 (1:800)、AS B31・ASK13 (1:80)、AS B31・検出面出土土器 (1:4) 実測図



9図 AS B37 (1:80)・A区溝址 (1:200)、AS K13・AS D26・27出土器 (1:4) 実測図

住居址観察表

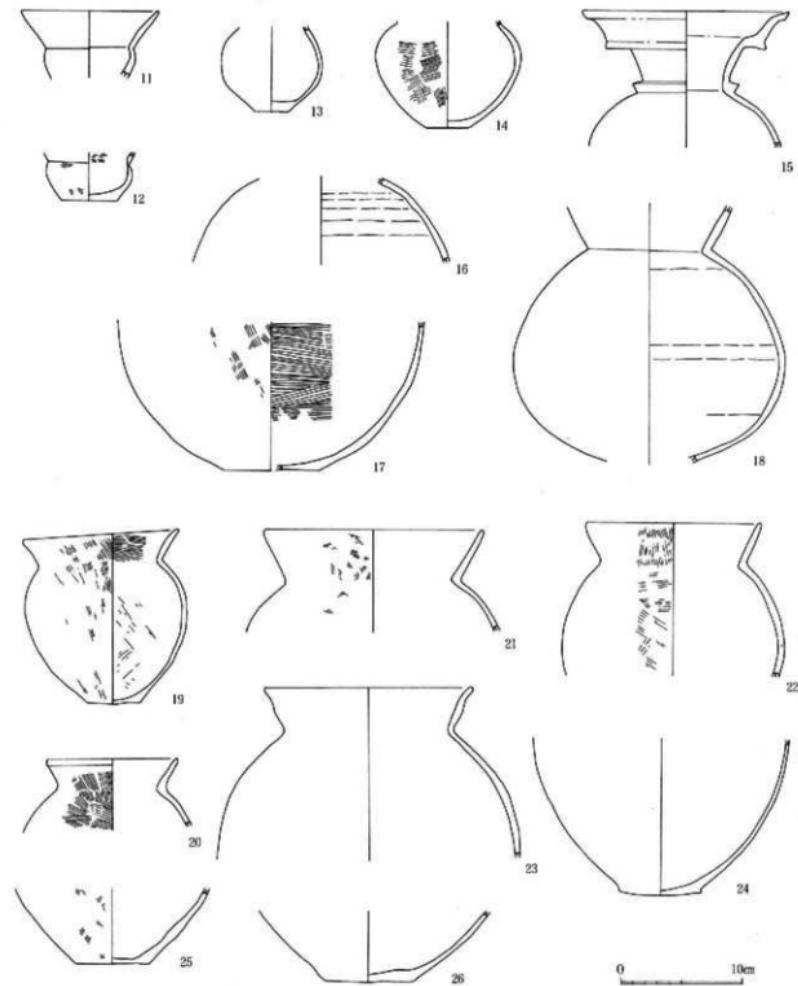
遺構名	図番号	形態	主軸×対軸×深(m)	主軸方向	内部施設等	特記遺物	図番号
AS B31	8	隅九方形	3.9 × 3.8 × 0.2	N45° E	AST 1重複・小穴		8
AS B37	10	隅九方形?	× × 0.2	N44° E	柱穴・小穴	有段口縁壺	10

土坑観察表

遺構名	図番号	形態	長軸×短軸×深(m)	長軸方向	内部施設等	特記遺物	図番号
AS K13	8	隅九台形	1.35 × 1.2 × 0.2	N30° E	平底		9

溝址觀察表

遺構名	図番号	形態・規模(長・幅・×深(cm))	方向	説明	特記遺物	図番号
A S D26	8	長不整椭円形, 3.84・0.84・0.4	北西・南東	A S D27と接続・併行		9
A S D27	+	U字形, 0.52・0.42	北西直折	A S D19と接続	赤彩高环・器台	9
(A S D10)	+	*, 0.6・0.4	北西・南東	A S D19と直交		



10図 A S B37出土土器実測図 (1 : 4)

造構名	図番号	形態・規模(長・幅・×深(cm))	方向	説明	特記遺物	図番号
(A S D19)	*	* . 0.5 . 0.45	北東・南西			
(A S D18)	*	* . (7.5) . 0.4 . 0.3	北西・南東	A S D27と直交		

遺物観察表

図番号	番号	種別	器種	法量(cm)		遺存	成形・調整等			備考
				口径	底径					
A S B31										
8	1	土師	台付甕			1/3	磨耗、内外ハラミガキ			
A S B37										
10	11	土師	小壺瓶	11.2		1/3	磨耗、内外ハラミガキ			
	12	*	浅鉢		4.6	2/3	外: ハラケズリ→ハラミガキ、内: ナデ・ハケナデ			
	13	*	壺		2.8	*	磨耗、内外ハラミガキ			
	14	*	*		3.6	1/3	外: ハケナデ・ハラミガキ、内: ナデ			
	15	*	*	17.0		1/4	外: ハラミガキ、内: 口縁ハラミガキ・体ナデ			
	16	*	*			1/5	外: 雜なハラミガキ、内: 成形痕・ナデ			
	17	*	*		7.8	1/4	外: ハケナデ→ハラミガキ、内: ハケナデ			
	18	*	*			*	外: ハラミガキ、内: 口縁ハラミガキ・体ナデ			
	19	*	甕	12.6	4.4	13.9	1/3	外: ハケナデ・ナデ、内: ハケナデ・ナデ		
	20	*	*	17.6		1/4	外: * → *, 内: ナデ			
	21	*	*	14.0		*	外: * → *, 内: *			
	22	*	*	10.6		1/3	外: ハケナデ、内: ハケナデ→ナデ、口縁: 面取り			
	23	*	*	16.8		1/4	磨耗、内外ハラナデ・ナデ			
	24	*	*		6.8	1/5	*	*	*	
	25	*	*		6.0	1/3	*	外: ハケナデ・ナデ、内: ハラナデ		
	26	*	*		7.2	*	*	外: * . * , 内: *		
A S K13										
9	4	土師	壺	18.0		1/6	外: ハケナデ→ハラナデ、内: 口縁ハケナデ・体部ヘラナデ			
	5	*	*		3.7	ママ	外: ハラナデ、内: ハラナデ・ナデ			
A S D26										
9	8	土師	浅鉢	7.4	5.2	4.4	1/2	内外ナデ		
	9	*	甕	10.8	4.9	10.4	7/8	外: ハケナデ→ハラナデ、内: ナデ		
	10	*	*	13.6			1/3	外: ハケナデ、内: ハケナデ→ナデ		
A S D27										
9	6	土師	器台	8.2	10.8	8.8	3/4	外: 坯内: ハラミガキ、脚内: ナデ、坏底: 円孔、脚: 3円孔		
	7	*	高坏				ママ	外: ハラミガキ・赤彩、脚: 棒状		
検出面										
8	2	土師	器台	9.4		4/5	外: ハケナデ→ハラミガキ、坏内: ハラミガキ、脚内: ハケナデ			
	3	*	高坏			ママ	外: ハラミガキ、脚内: ハケナデ→ナデ、脚: 3円孔			



A S B31 · A S T 1 (平安)



A S B37



A S B37土器出土状態



A S B37土器出土状態



A S D27 · 19



A S D19 · 27



A S D26 (中央右) · 27 (右端)



A S K13

A S B37



12



14



19



15



20

A S B31



1

A S D27



5

検出面



9



8

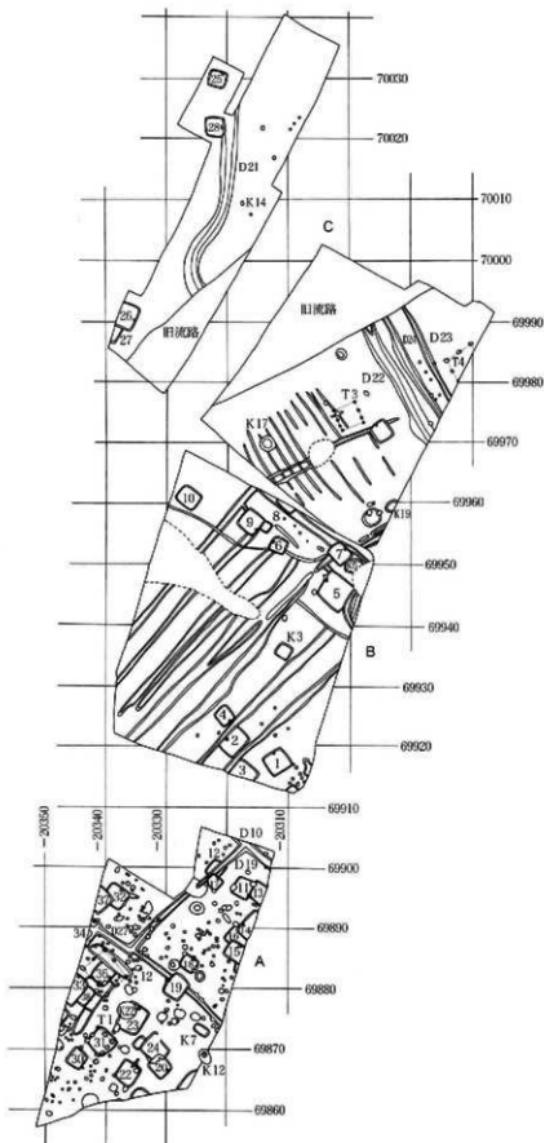


2

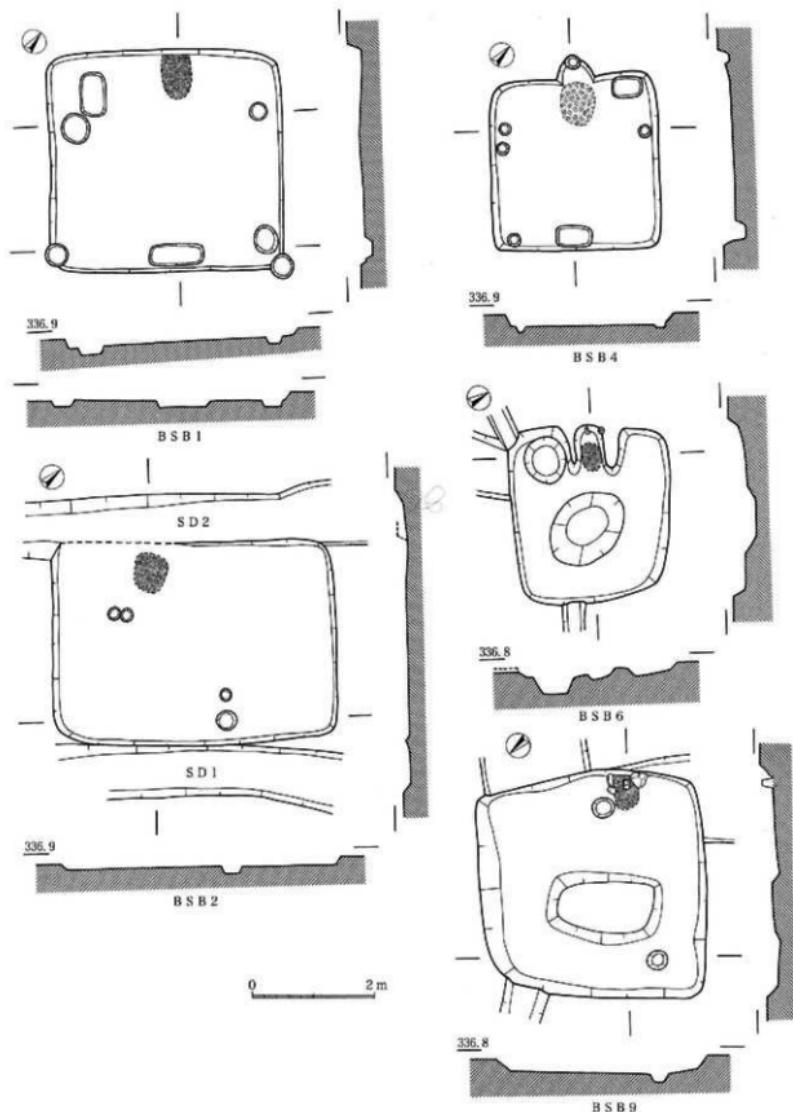
## 2 平安時代の遺構と遺物（A・B・C調査区）

住居址等の遺構の分布は調査面積が最も少ないA調査区に集中しており、北方向に向かうほど密度を減する。住居址はA調査区が22軒確認されているのに対し、B調査区では9軒、C調査区では5軒検出されているにすぎない。また、A調査区のみに2基の井戸址が構築され、掘建柱建物址にしても長方形または方形の掘方を穿ち柱穴が確認されている。C調査区は遺構の存在が過疎になると共に北端付近に1基の火葬施設が存在するなど居住域占地の特色を表している。なお、B調査区とC調査区の南側にみられる併行する大小の溝址は、当該期の遺物が出土するものもあるが後世における耕作によるものと思われる。

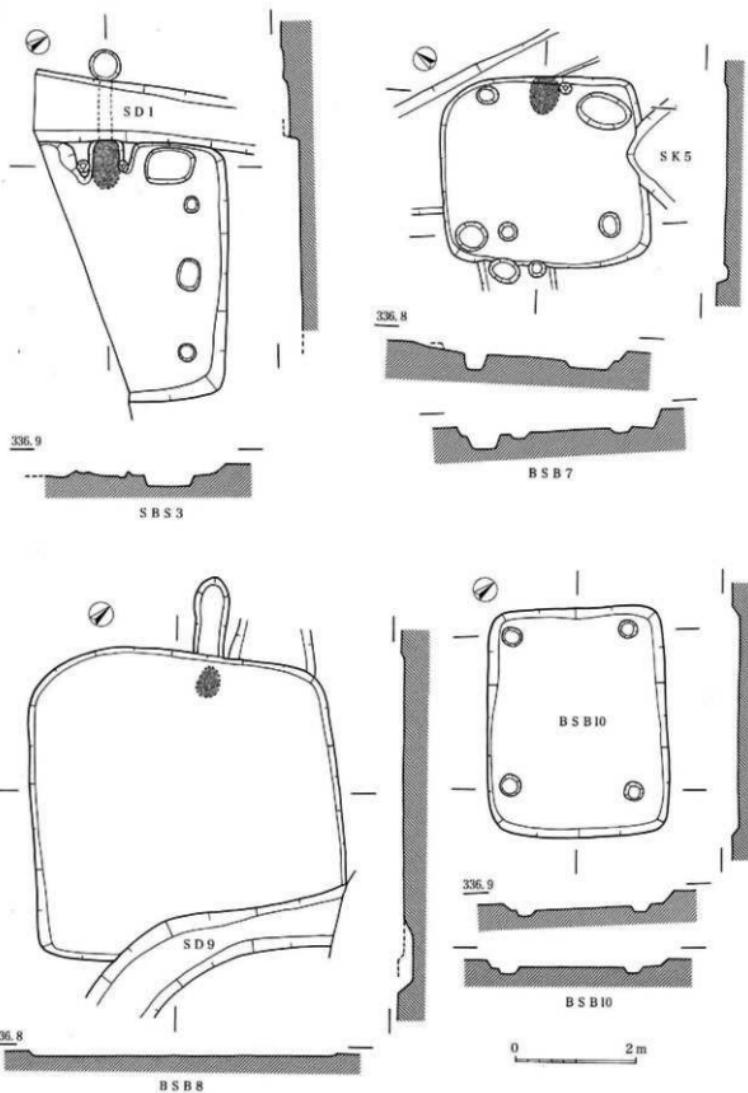
住居址の基本形態は隅丸方形と隅丸長方形であるが、不整方形や台形に近いものまであり一様ではない。規模においてもB S B 8の一辺5.2mを最大の数値にして、B S B 2、A S B 33や34の一辺4m台後半の数値のものが大型住居址といえる。小型に属するものは一辺が3m以下のB S B 4・6・A S B 11・C S B 25等がある。共にカマドを有しており、小型といえどもりっぱな居住施設である。カマドは検出した34軒の住居址のうち25軒から確認されている。形態が判明するものは両袖形を呈するものB S B 3・6、A S B 21・22・29・32～34・36の9軒あり、さらにB S B 9・14、C S B 28の3軒は石芯（石組）である。この他特徴的なカマドに壁外に構築された突出形のものがB S B 4、A S B 15・18・19にみられ、A S B 15には両袖構築石材・支脚石が残存していた。しかし、これらは完存していたわけではなく、住居廃棄の際破壊を受けている。抽出しなかった他の住居址は火床を示す焼土および焼土塊が残存していたにすぎない。構築の位置は各壁の中央や左右どちらかに偏するものの隅際に構築されるものはない。遺構図で北に対して／方向壁（西壁・北壁）に構築されるものをA形態、逆の＼方向壁（東壁）に造られたものをB形態、／方向壁の対辺のもの（南壁）をC形態とする。A形態のものはB調査区を中心に10軒（A S B 14・17・19、B S B 1～4・6・8、C S B 29）認められる。B形態のものはA調査区に7軒（A S B 15・18・22・23・32～34）みられ、B調査区（B S B 7）やC調査区（C S B 25）に各1軒あるにすぎない。C形態ではさらに点在傾向にあり、A調査区5軒（A S B 11・16・20・21・36）、B調査区1軒（B S B 9）、C調査区2軒（C S B 26・28）の総計8軒確認されている。各形態群の中で重複関係にあるものはC形態のA S B 20と21にすぎなく、他は単独で存在している。この形態のあり方はD調査区でも認められる。この他住居址内の施設としてカマドの横に掘り込まれた土坑状の貯蔵穴があるもの（B S B 3・6・7、A S B 22・28・29・32・36）、入口部の施設と考えられる長方形を呈する掘り込みのあるもの（B S B 1・4）がある。柱穴が各隅に配されているB S B 10がある。柱穴の存在するものはこの1軒のみで他にはみられない。井戸址はA調査区の南側の居住域内に位置している。共に井筒はカズラ科カズラ属カズラの丸太原木を半截し、厚さ5cm程を残して削り抜いている。A S K 12は丸太杭を粗く全周に打ち込み、A S K 22は方形の木枠と板隣みでそれぞれ固定している。浄化施設としては底部に曲物を据えるのも共通している。さらにA S K 12の底からは挽物の皿が30枚以上・曲物底板12枚・櫛・墨書き器等が出土している。皿には「木」「大井」の刻文、所有を表すであろう焼き印を押す物もある。墨書きは人名であろうか黒色土器体部外面に5文字が書かれている。井戸廃棄時にこれらの物を投棄することにより鎮魂の意をもった祭祀行為が行われたことがうかがえる。A S K 22からも墨書きのある土器破片や曲物底板等が出土しており、何らかの祭祀行為が推定される。A調査区の掘建柱建物址については本節冒頭で記したとおり、2間×3間規模の通例にみられる安定したものである。これに対しC調査区の2棟は掘方が円形であり、C S T 3では1間×3間と不規則で平行に掘方が認められることなどから簡易な建物が予想される。



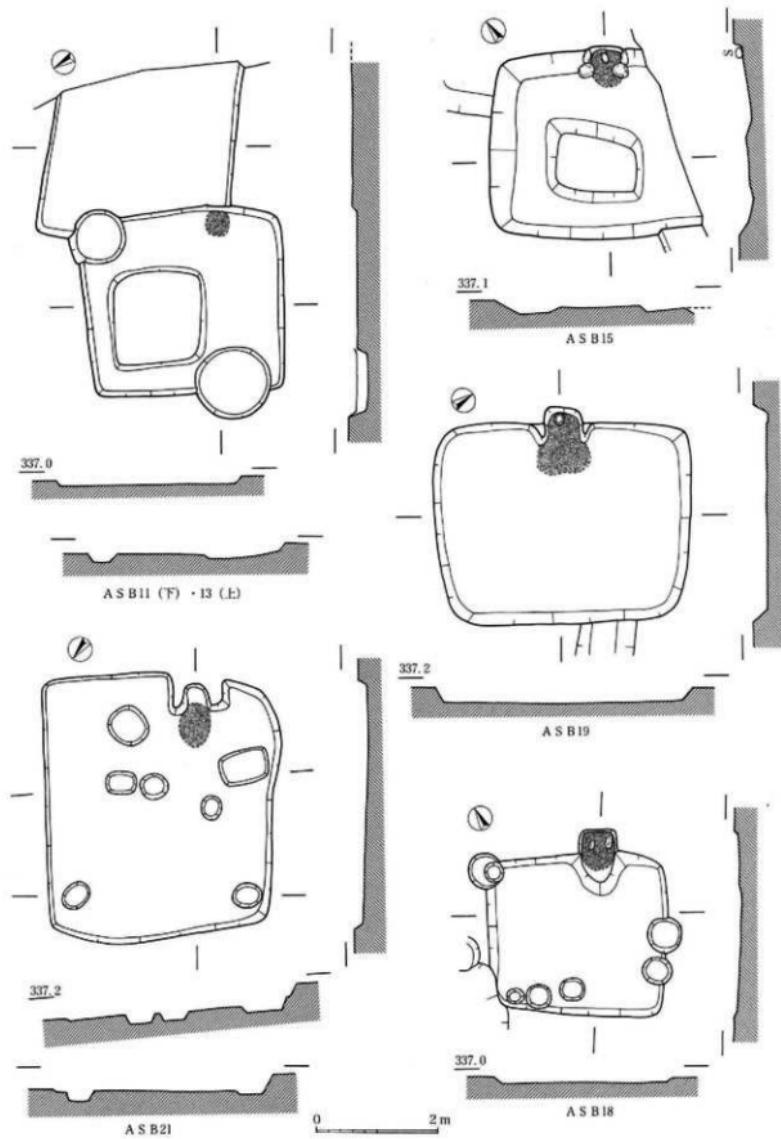
11図 A・B・C調査区造構分布図 (1:800)



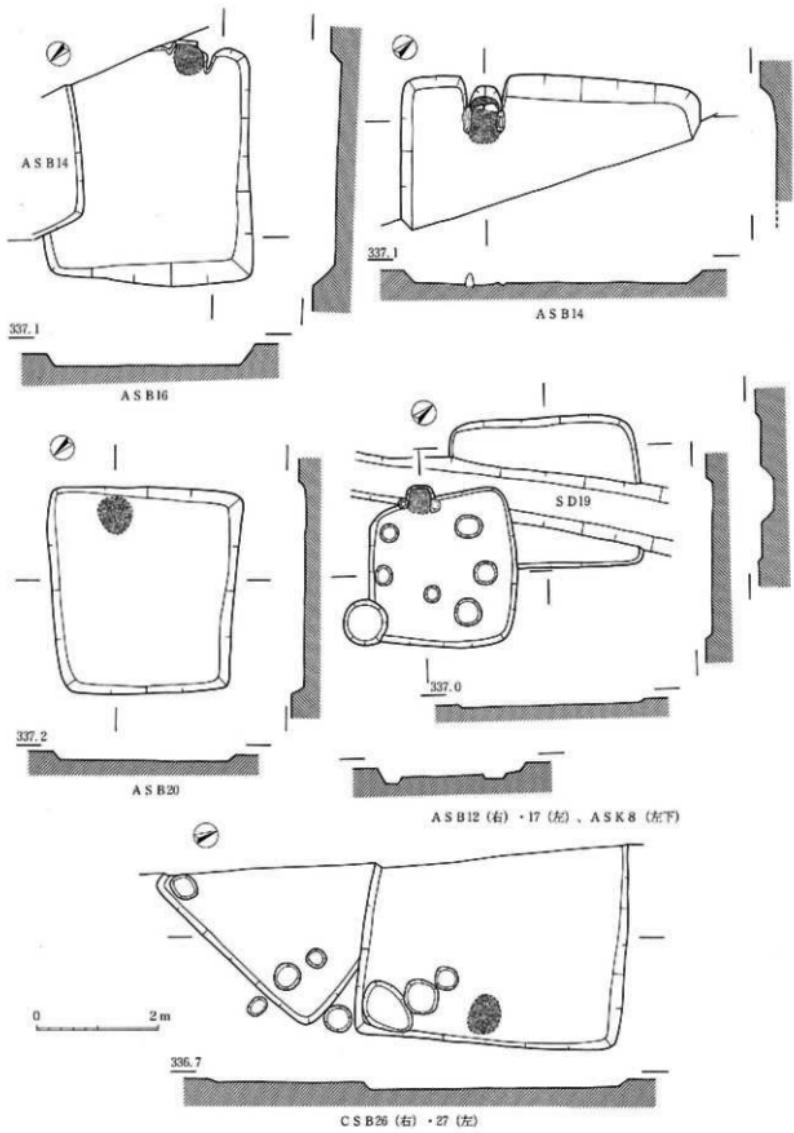
12図 B S B 1・2・4・6・9実測図 (1:80)



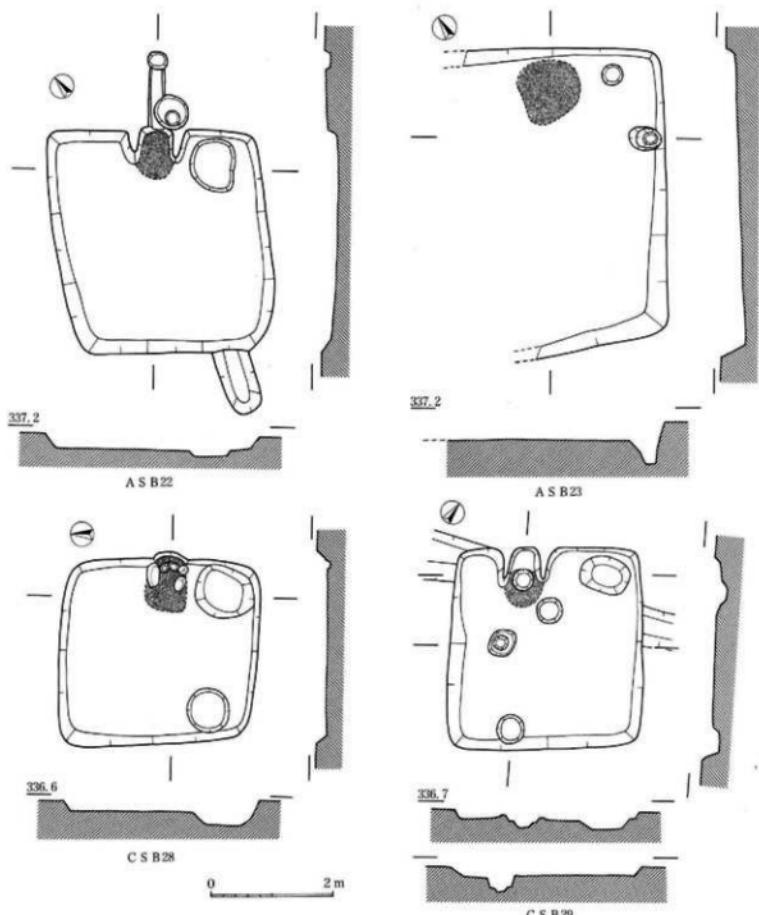
13図 B S B 3・7・8・10実測図 (1:80)



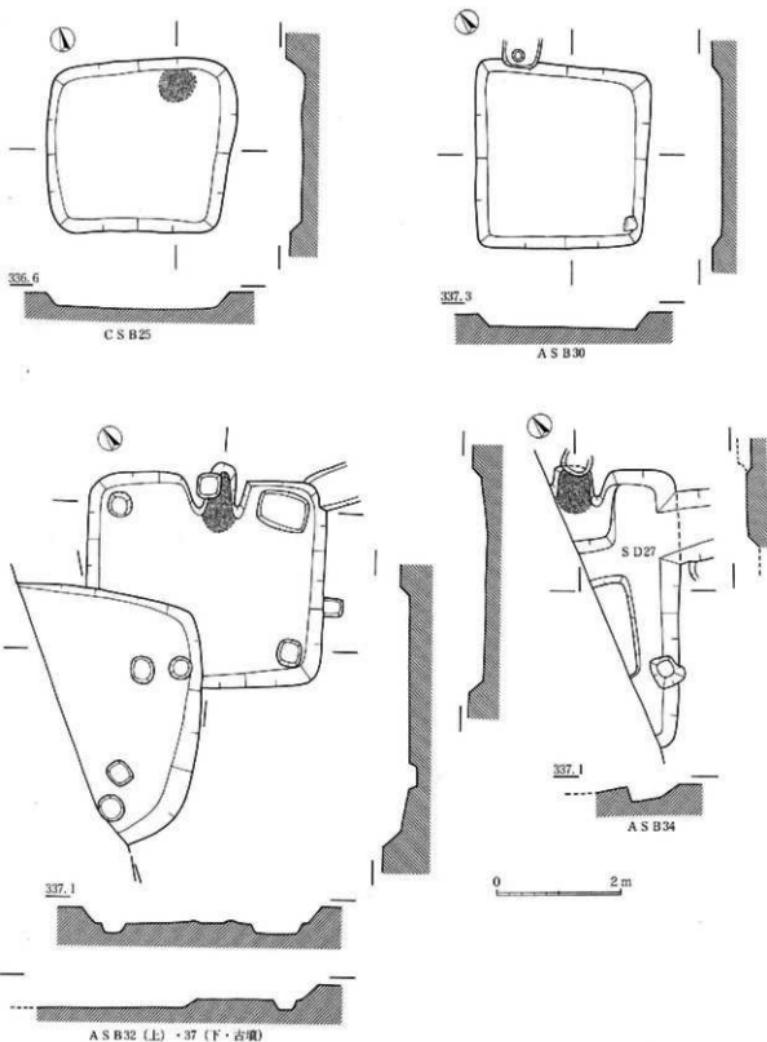
14図 AS B11・13・15・18・19・21実測図 (1 : 80)



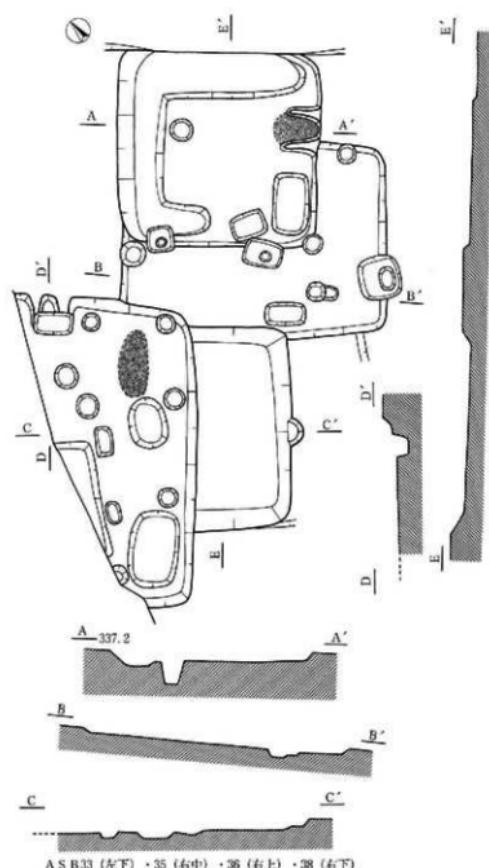
15図 ASB12・14・16・17・20、CSB26・27、ASK8実測図 (1:80)



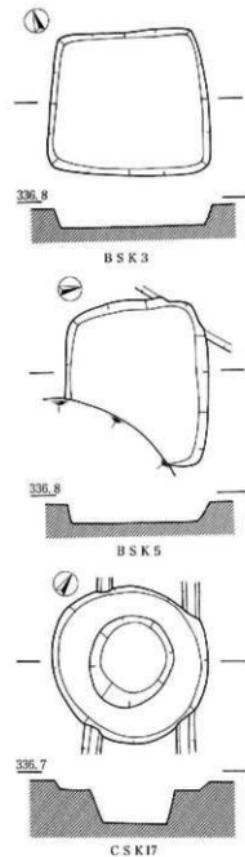
16図 ASB22・23、CSB28・29実測図 (1:80)



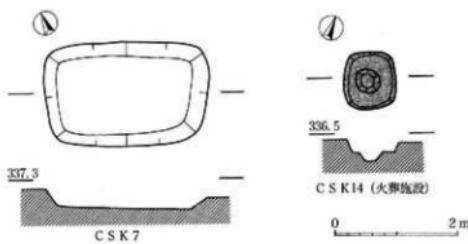
17図 CS B25、AS B30・32・34・37(古墳)実測図



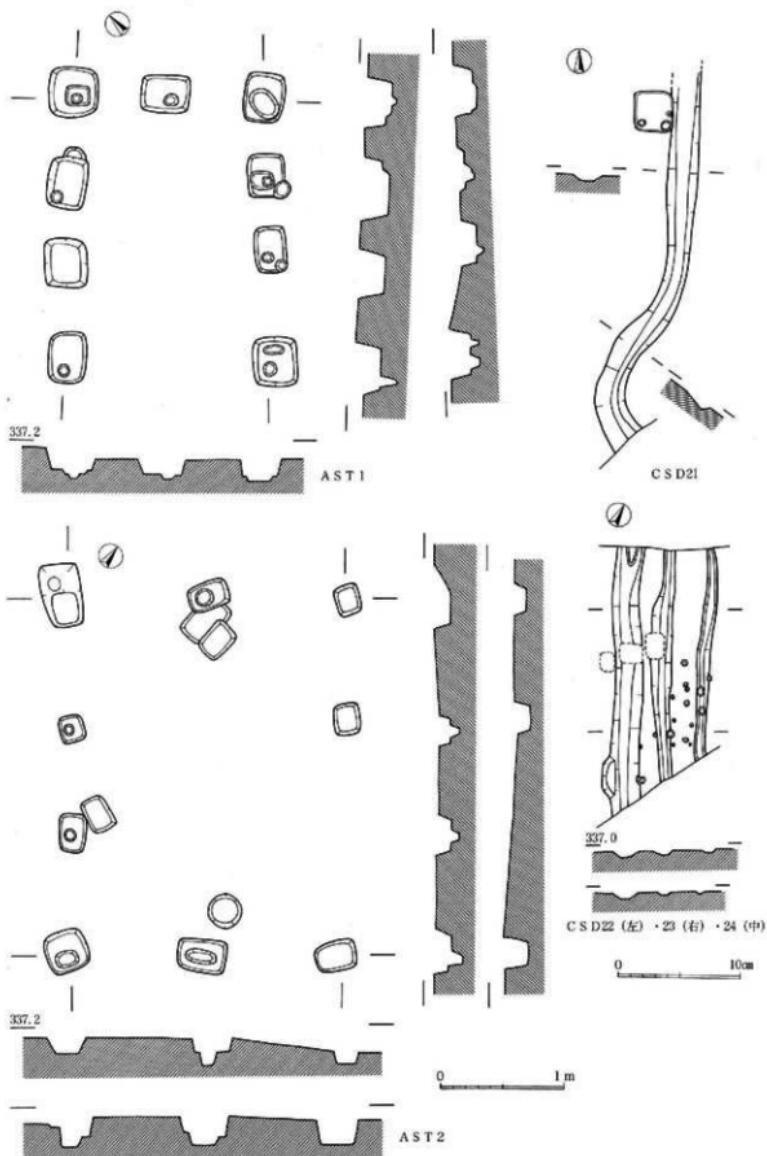
AS B33 (左下)・35 (右中)・36 (右上)・38 (右下)



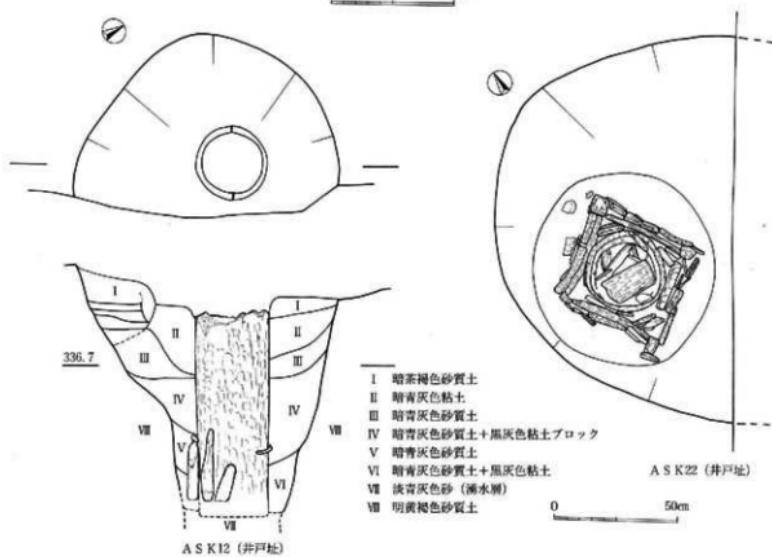
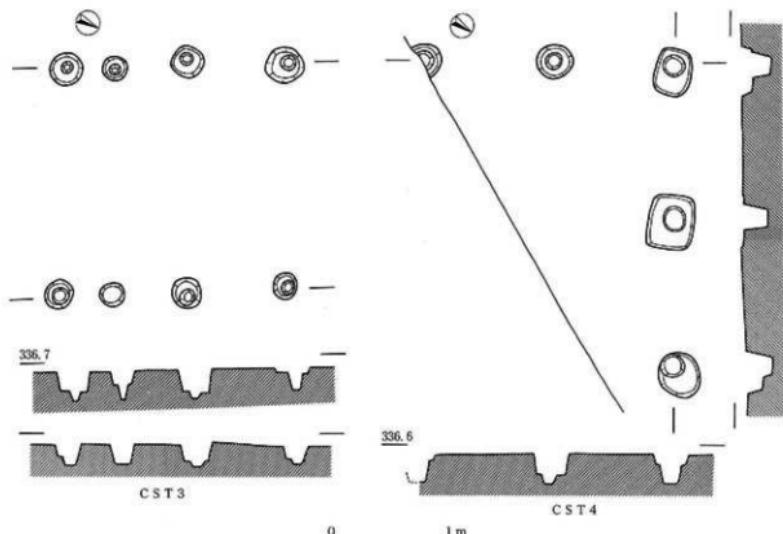
AS B33 (左下)・35 (右中)・36 (右上)・38 (右下)



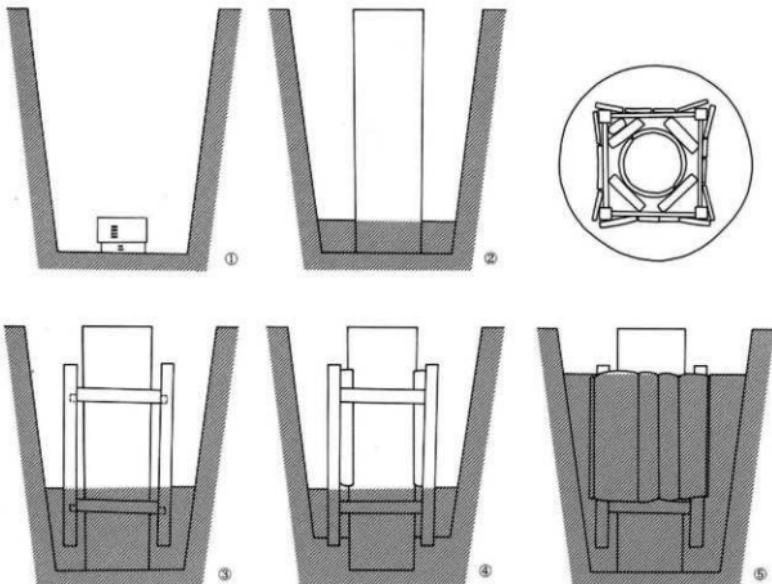
18図 AS B33・35・36・38、B SK 3・5、CS K7・17・14・19実測図 (1:80)



19図 AST 1・2 (1:40), CSD 21~24 (1:200) 実測図



20図 CST 3・4 (1:40)、AS K12・22 (1:20) 実測図

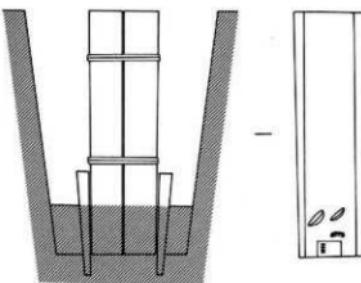


A SK22

- A SK22
- ① 円形土壌（掘方）を掘り、底に曲物を据え置く。
  - ② 半裁例り抜き丸太（井筒）を固定する。
  - ③ 方形に枠を組む。横木とはホゾによる接合。
  - ④ 枠内の隙間に板を挿入して井筒を固定する。
  - ⑤ 枠外四方を板で囲み、土壤を埋め戻す。

A SK12

- ① 円形土壌を掘り、底に曲物を据え置く。曲物は破片化しており復元できず。
- ② 結縛した半裁例り抜き丸太を固定する。
- ③ 下部外周に杭を打ち込み再固定する。
- ④ 土壤を埋め戻す。



21図 A SK12・22構築想定図（千野作成）

住居址観察表

遺構名	図番号	形態	主軸×対軸×深(m)	主軸方向	内部施設等	特記遺物	図番号
B S B 1	11	隅丸方形	3.6 × 3.8 × 0.2	N33° W	北壁中央カマド、入口部長方形土坑		21
B S B 2	*	隅丸長方形	3.3 × 4.6 × 0.1	N45° W	北壁左カマド		*
B S B 3	12	隅丸方形?	4.25 × × 0.1	N55° W	北壁中央両幅カマド、隅丸長方形貯蔵穴		*
B S B 4	11	隅丸長方形	2.8 × 2.7 × 0.2	N41° W	北壁中央突出カマド、入口部長方形土坑		*
B S B 6	11	*	3.0 × 2.6 × 0.25	N60° W	北壁中央両幅カマド、支脚石、円形貯蔵穴		22
B S B 7	12	*	3.1 × 3.4 × 0.15	N55° W	東壁中央カマド、梢円形貯蔵穴		21
B S B 8	*	隅丸方形	5.2 × 5.2 × 0.1	N45° W	北壁中央カマド、煙道		*
B S B 9	11	*	3.7 × 3.7 × 0.2	N140° E	南壁右石芯カマド	ヘラ記号	22
B S B 10	12	隅丸長方形	3.8 × 3.0 × 0.15	N49° W	柱穴各壁隅長方形配列	灰釉皿	23
A S B 11	13	隅丸方形	3.0 × 2.8 × 0.1	N120° E	南壁右カマド		*
A S B 12	14	隅丸長方形	2.45 × 3.0 × 0.12	N41° W			
A S B 13	13	長方形?	3.05 × × 0.14	N53° W			
A S B 14	14	方形?	× 4.9 × 0.2	N52° W	北壁左石芯カマド		23
A S B 15	13	隅丸長方形	3.1 × × 0.3	N32° E	東壁中央石窓突出カマド・支脚石・床中央高まり		21
A S B 16	14	隅丸長方形	4.0 × 3.5 × 0.3	N133° E	南壁右カマド		24
A S B 17	*	不整台形	2.3 × 2.4 × 0.1	N51° W	北壁左石窓突出カマド		*
A S B 18	13	隅丸長方形	2.6 × 3.0 × 0.15	N30° E	東壁右突出カマド		*
A S B 19	*	*	3.3 × 4.2 × 0.2	N55° W	北壁中央突出カマド		25
A S B 20	14	台形	3.1 × 3.4 × 0.2	N136° E	南壁左カマド		24
A S B 22	15	不整方形	3.7 × 3.6 × 0.22	N43° E	東壁中央両幅カマド・煙道、不整円形貯蔵穴		25
A S B 23	*	方形?	(5.0) × × 0.4	N34° E	東壁右カマド		24
A S B 24	13	隅丸長方形	4.4 × 3.8 × 0.18	N140° E	南壁右両幅カマド	砥石	25
C S B 25	16	隅丸方形	2.7 × 3.1 × 0.3	N17° E	東壁右カマド		26
C S B 26	14	方形?	× 4.3 × 0.1	N125° E	南壁中央カマド		
C S B 27	*	*	3.5 × × 0.08	N22° W			
C S B 28	15	隅丸方形	3.1 × 3.3 × 0.2	東西	東壁中央石芯カマド、不整円形貯蔵穴		26
C S B 29	*	*	3.3 × 3.2 × 0.15	N37° W	北壁右両幅カマド、梢円形貯蔵穴		
A S B 30	16	不整方形	3.0 × 2.8 × 0.18	N38° E			27
A S B 32	*	隅丸長方形	3.4 × 3.7 × 0.2	N35° E	東壁中央両幅カマド、隅丸長方形貯蔵穴		26
A S B 33	17	*	4.85 × × 0.3	N42° E	*	灰釉碗	27
A S B 34	16	隅丸長方形?	4.5 × × 0.15	N37° E	*		
A S B 35	17	隅丸長方形	3.2 × 4.35 × 0.1	N40° E			
A S B 36	*	隅丸方形	3.3 × (3.2) × 0.15	N130° E	南壁左両幅カマド、隅丸長方形貯蔵穴		27
A S B 38	*	隅丸方形?	3.3 × × 0.1	N42° E		*	

井戸址観察表

遺構名	図番号	土 坑		井 筒		底面	浄化施設等・特記遺物	図番号
		形態	規模(m)	形態	規模(m)			
A SK12	20	不整円形	外径1.1~ 底径0.4~・深1.0~	円形	半裁丸太材径0.5 高0.8~		焼印木皿・木皿・燒 畫物・墨書き土器	29 30
A SK22	*	*	外径1.6~ 井筒上部径0.75	方形	半裁丸太材径0.35 木枠0.4四方・板材圓	曲物	墨書き土器・羽口片・桃 実・獸骨	31

掘立柱建物址観察表

遺構名	図番号	形 態	規模(芯々m)	柱間(芯々m)	長軸方向	説 明
A ST1	19	3間×2間	4.5×3.1	1.3×1.5	N42° E	南桁行中央柱穴未確認 掘方椭丸長方形・柱穴有
A ST2	*	*	5.9×5.2	梁行2.1~1.8 桁行2.3	N40° W	東梁行柱穴1個未確認 掘方方形・長方形・柱穴有
C ST3	20	3間×1間	3.6×3.7	梁行1.6~0.8 桁行3.8~3.7	N23° W	桁行中間に柱穴なし 掘方円形・柱穴有
C ST4	20	3間×2間?	*×4.9	2.0×2.45	N30° W	南東部調査区外 掘方円形・長方形・柱穴有

火葬施設観察表

遺構名	図番号	形 態	規 模(cm)	長軸方向	説 明
C SK14	18	隅丸方形	長軸90・短軸84・深20	N23° W	壁焼土塊化・火葬人骨片・小穴

土坑観察表

遺構名	図番号	形 態	規模(m) 長軸・短軸・深	説 明	遺構名	図番号	形 態	規模(m) 直径・深	説 明	遺物
B SK3	18	隅丸台形	2.4・2.6・0.3	平底	C SK17	18	円形	二段掘り 外径2.5・0.1 内径1.4・0.6	平底	
B SK5	*	隅丸長方形	2.6・2.4・0.3	*						
A SK7	*	*	2.65・1.7・0.3	*	C SK19	*	円形?	径2.3・0.25	*	

溝址観察表

遺構名	図番号	形態・規模(長・幅・深(m))	方 向	説 明	特記遺物	図番号
C SD21	19	U字形。(15)・0.9~1.3・0.2	南北・東屈曲	旧河川に接続	銅製温方	27
C SD22	*	*・(11)・1.1~0.5	*	C SB23・24と併行		28
C SD23	*	*・(9.5)・0.5~0.8・0.3	*			*
C SD24	*	*・(8.5)・0.3~0.5・0.1	*			*



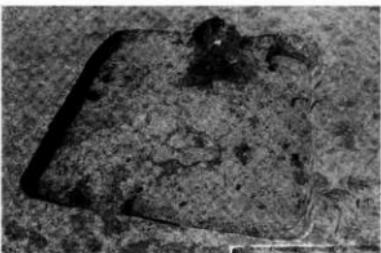
A S B 1



A S B 2



A S B 3



A S B 4



A S B 6



A S B 7



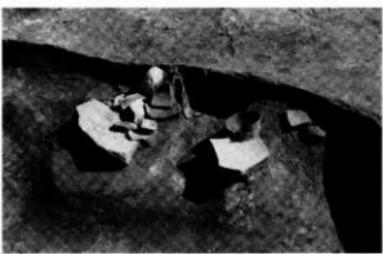
A S B 9



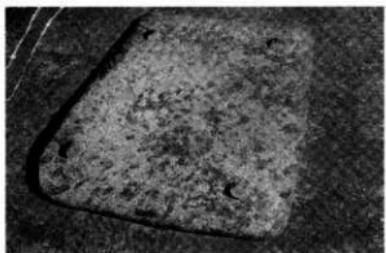
A S B 9 カマド



ASB 8



ASB 11カマド



ASB 10



ASB 10カマド



ASB 14



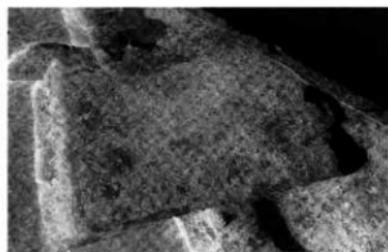
ASB 14カマド



ASB 15



ASB 15カマド



ASB16



ASB17



ASB18



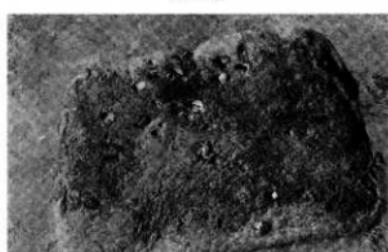
ASB22



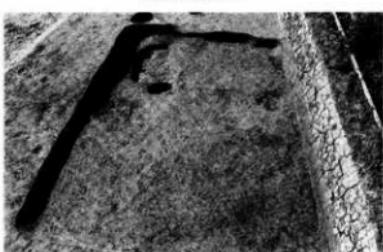
ASB19



ASB19カマド



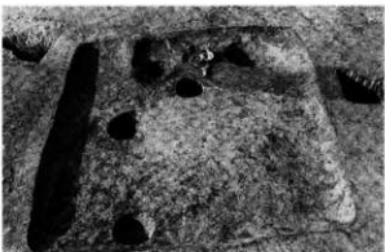
CSB25



CSB26



C S B27



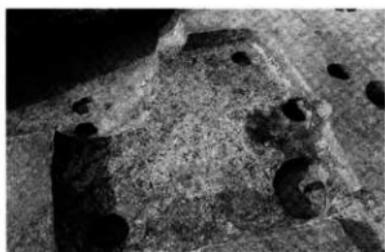
C S B29



C S B28



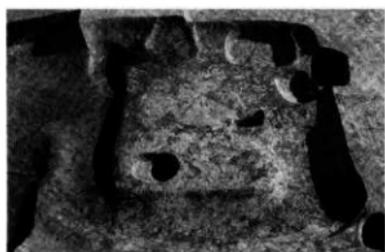
C S B28カマド



A S B32



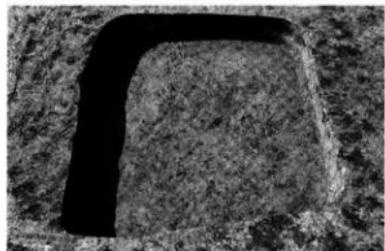
A S B33



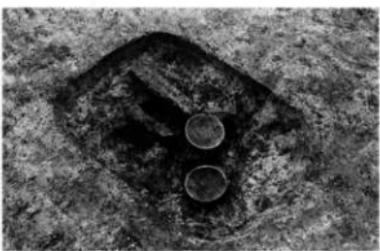
A S B36



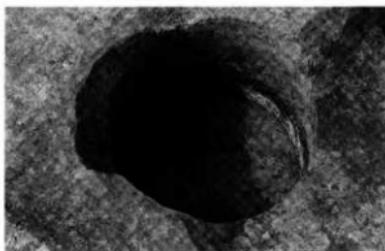
A S T1



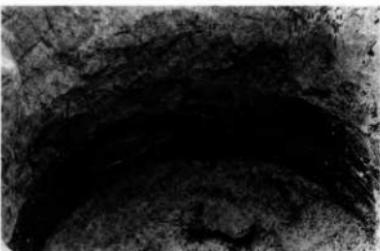
ASK 3



ASK 4



ASK 8



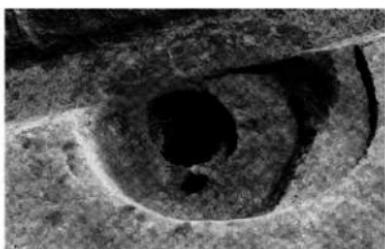
ASK 8 曲物



ASK 9



ASK 11



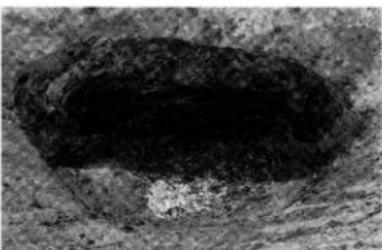
ASK 12



ASK 12丸太材削り抜き井筒



B S K12出土木皿



C S K14 (火葬施設)



C S K18



A S K22



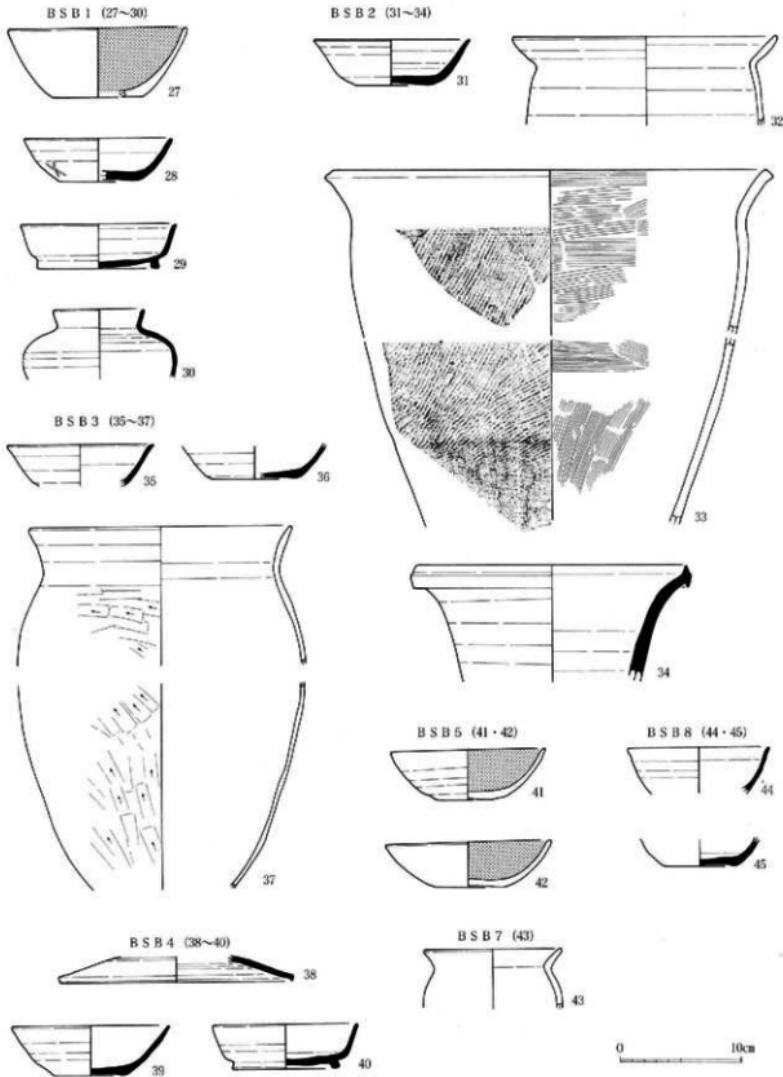
A S K22



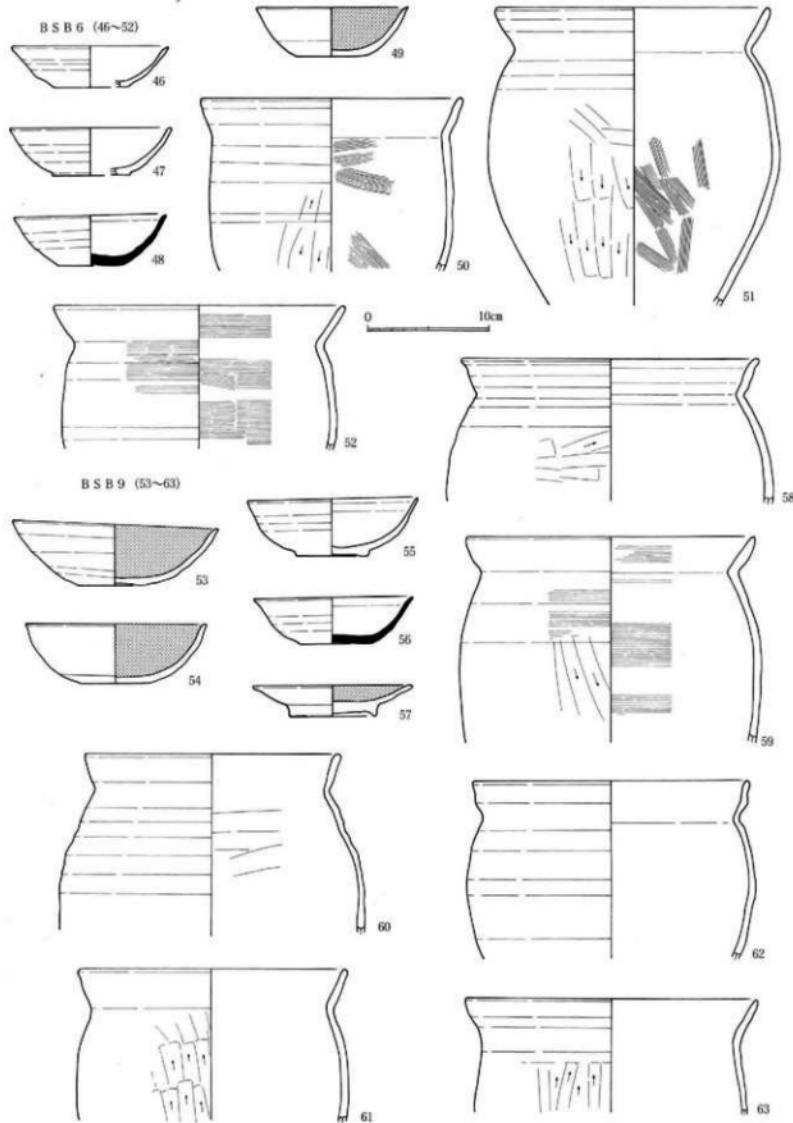
A S K22



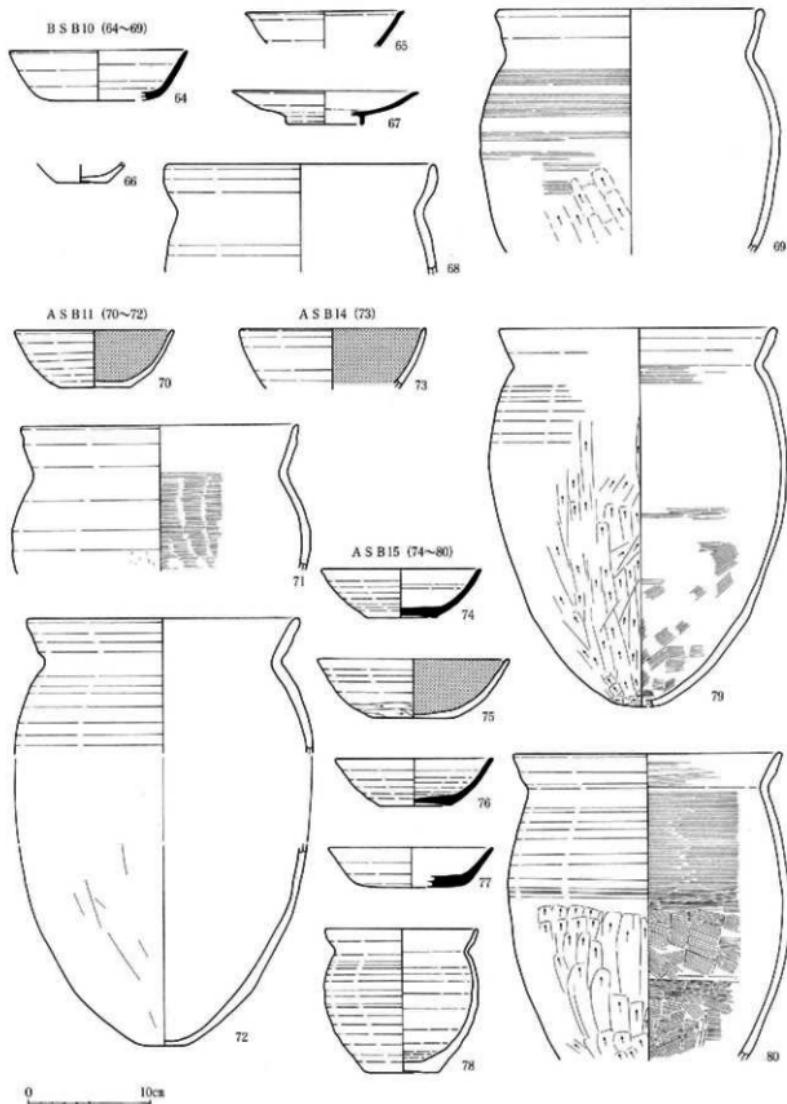
B区溝址



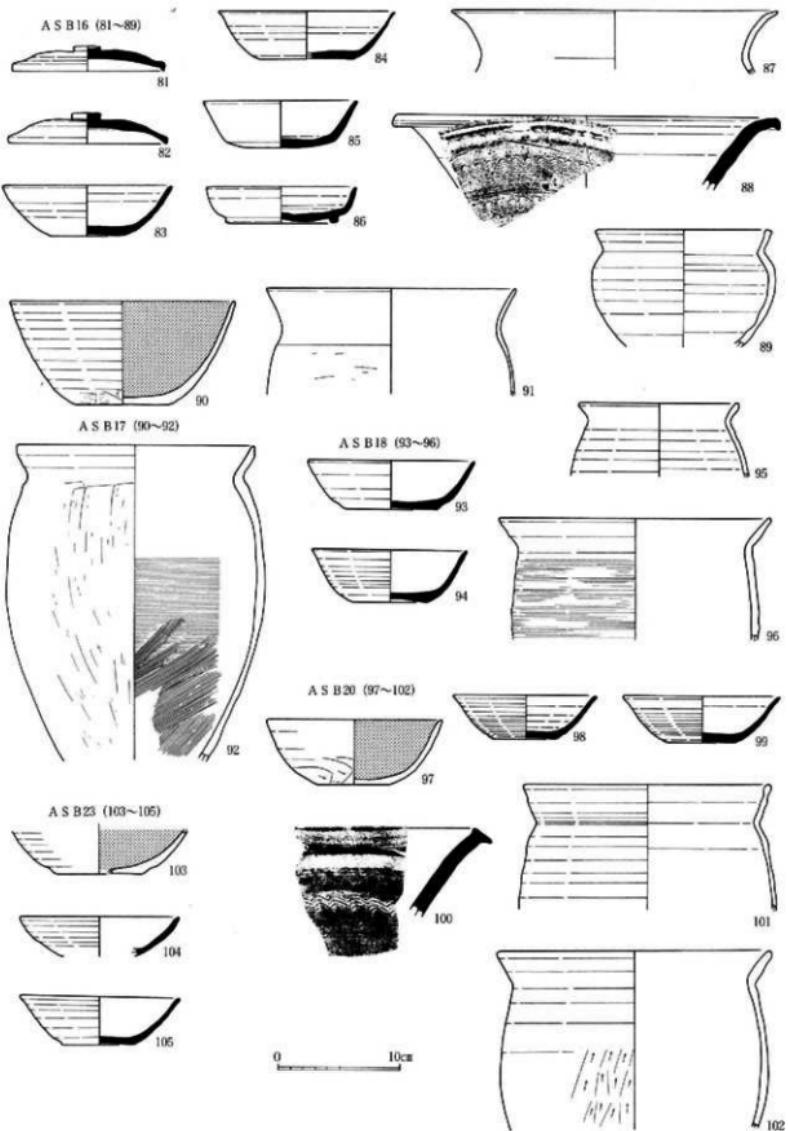
22図 B S B 1 ~ 5 + 7 + 8 出土土器実測図 (1 : 4)



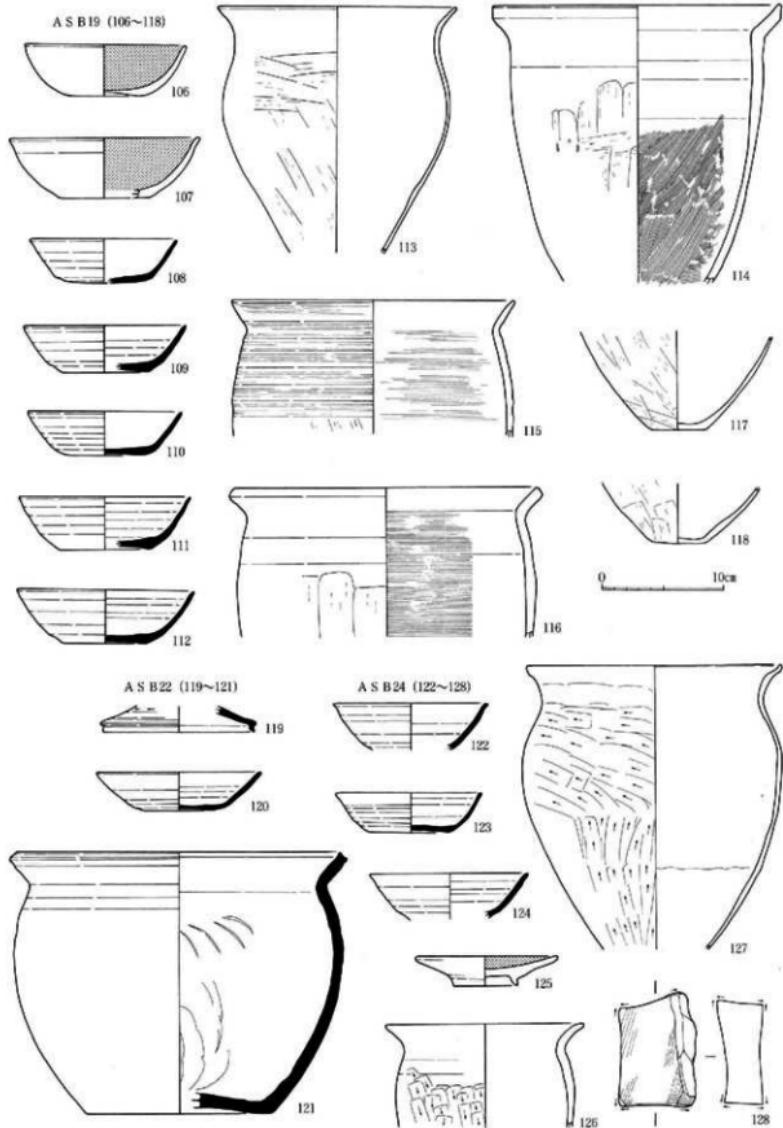
23図 B S B 6・9出土土器実測図（1：4）



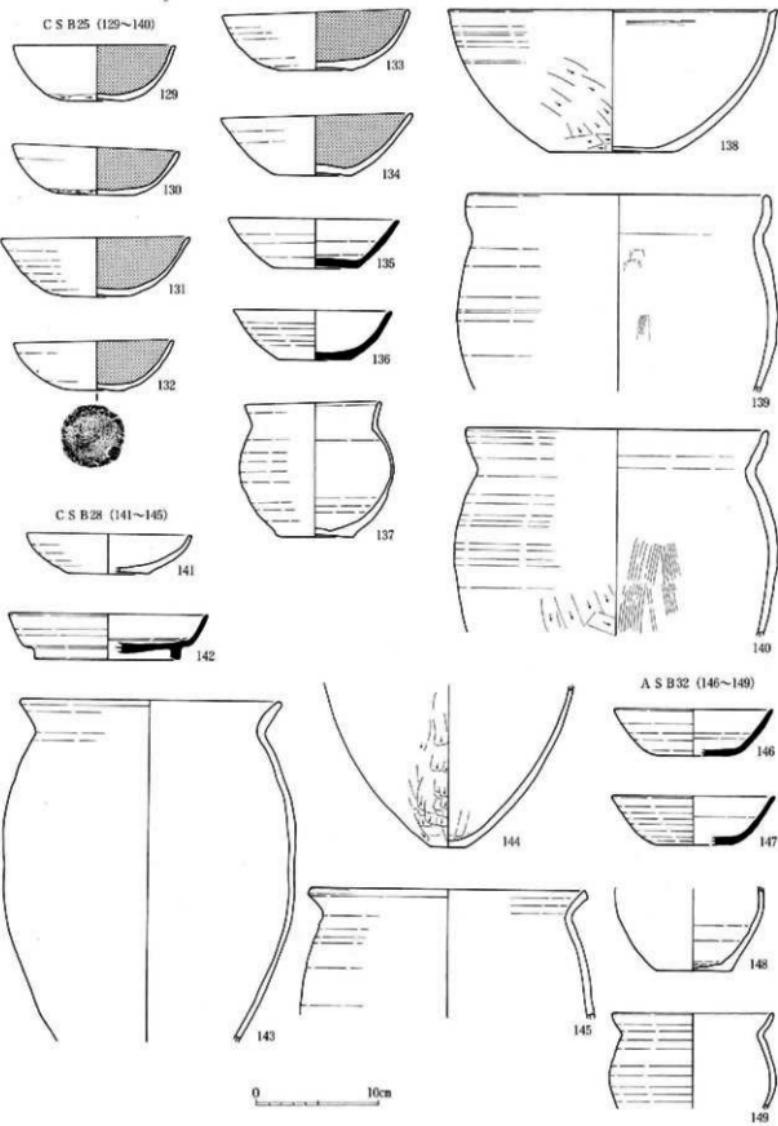
24図 B S B10、A S B11・14・15出土土器実測図 (1 : 4)



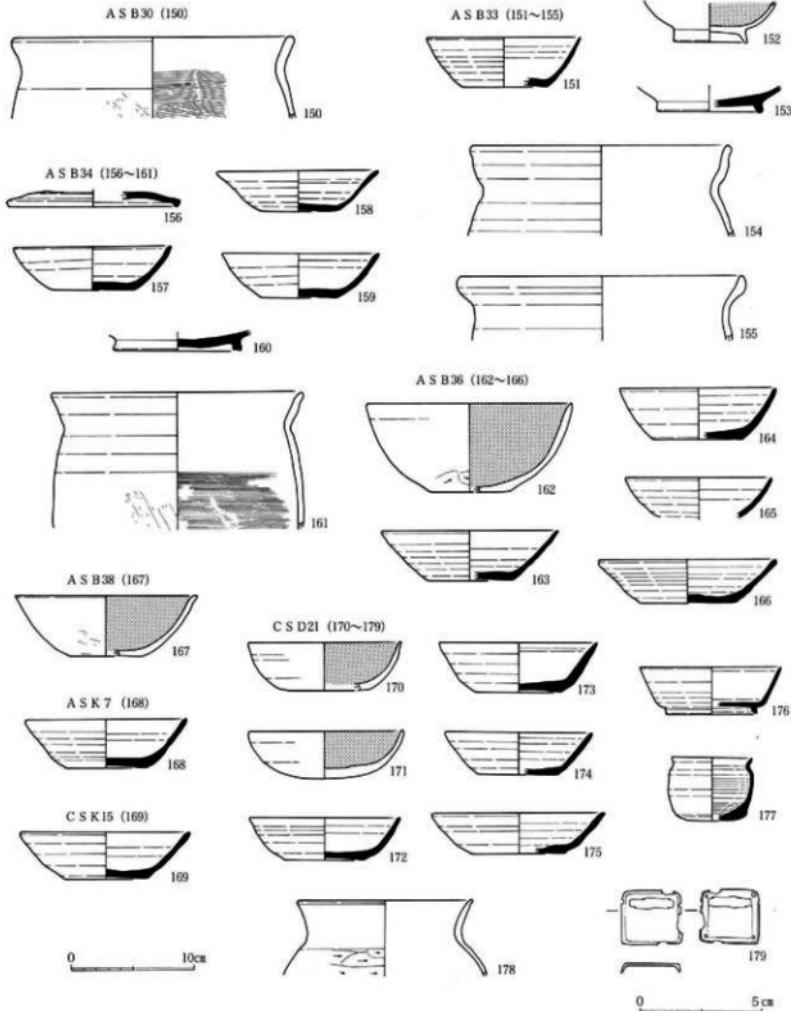
25図 AS B16~18・20・23出土土器実測図 (1:4)



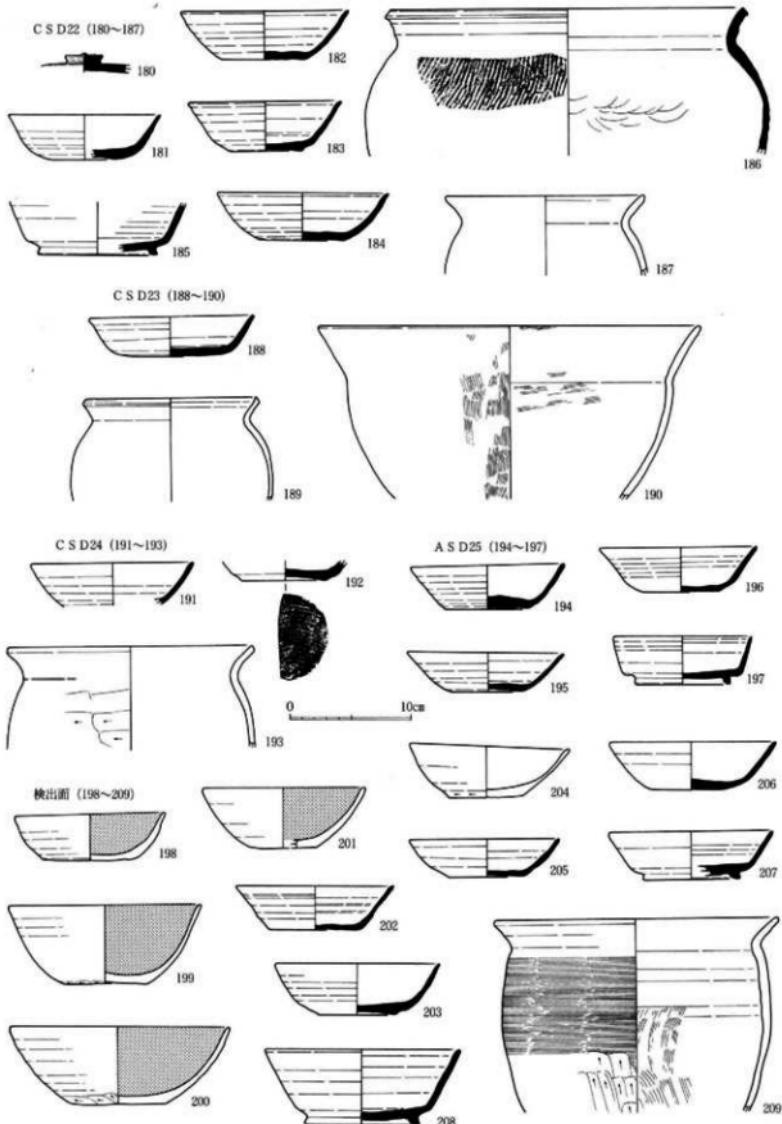
26図 AS B19・22・24出土器・石製品実測図 (1:4)



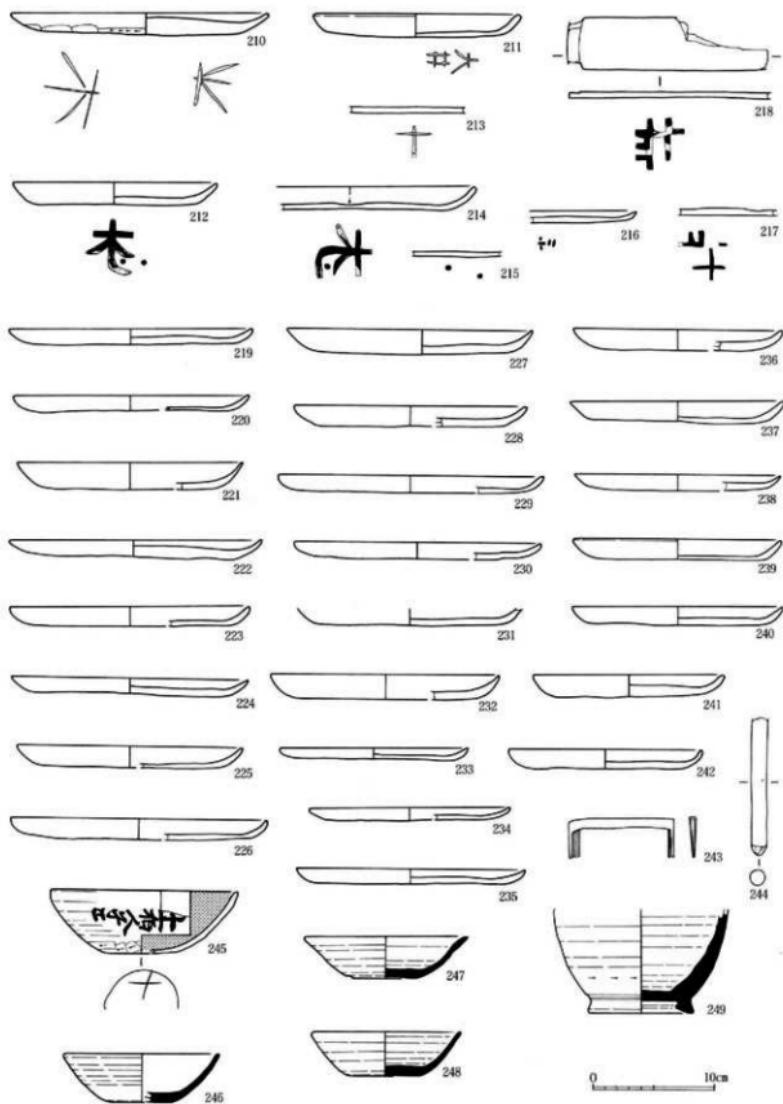
27図 C S B25・28、A S B32出土土器実測図 (1:4)



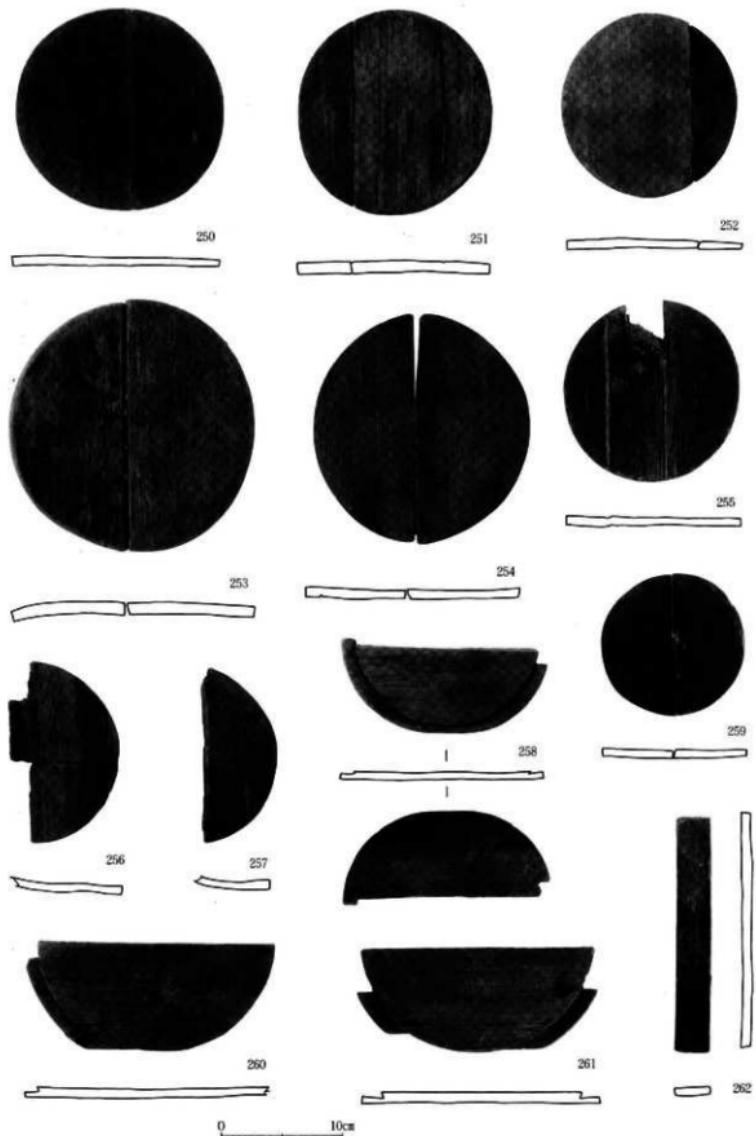
28図 AS B30・33・34・36・38、ASK 7、CS K15、CSD 21出土土器（1：4）、銅製品（179のみ1：2）実測図



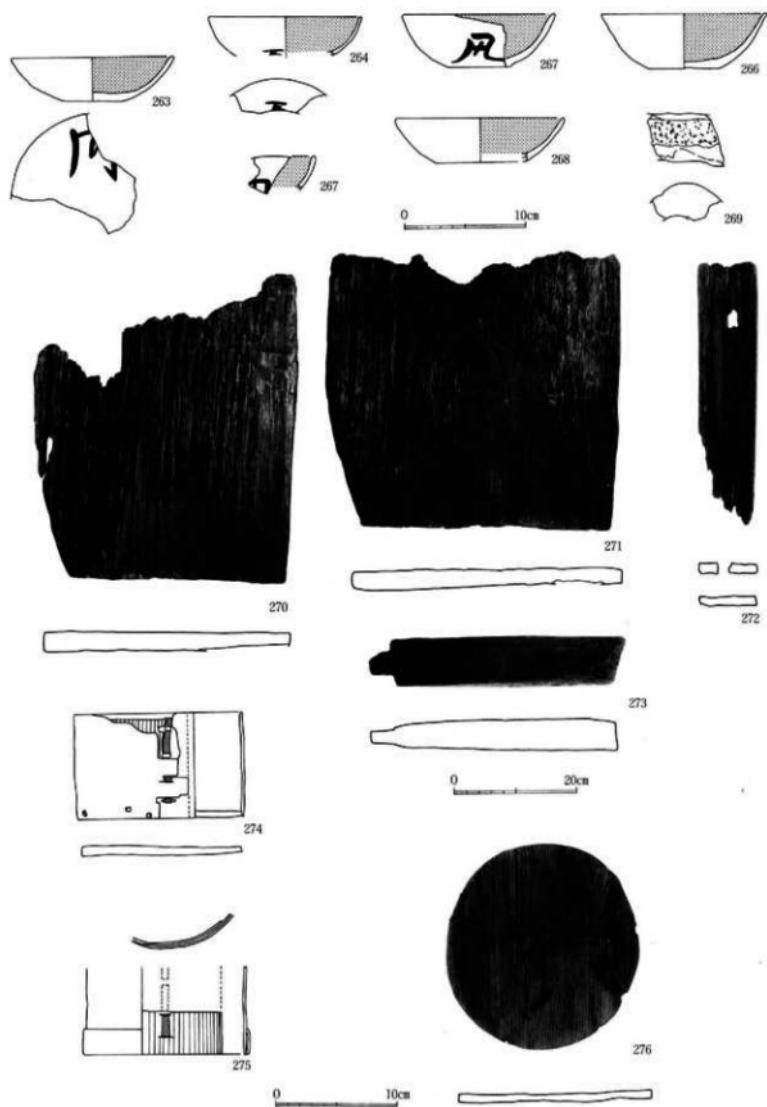
29図 C S D22~24、A S D25出土土器実測図 (1 : 4)



30図 AS K12(井戸址)出土木製品・土器実測図(1:4)



31図 AS K12(井戸址)出土木製品実測図(1:4)



32図 AS K22(井戸址)出土木製品・土器・土製品実測図(1:4、267~270は1:8)

遺物観察表(I)

番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	特記事項	番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	特記事項				
			口径	底径	器高						口径	底径	器高						
B S B 1 (22個)										B S B 9 (23個)									
27	黒色	坏	14.7	7.4	5.6	1/4	底ヘラケズリ	53	黒色	坏	17.1	6.2	5.1	4/5	底糸切り・ヘラ記号				
28	須恵	*	12.1	6.3	3.4	1/3	底糸切り	54	*	*	15.7	5.9	4.9	1/4	*	・内ヘラミガキ			
29	*	高台坏	12.7	10.0	3.6	1/2	底回転ヘラケズリ	55	土師	*	14.1	6.0	4.8	4/5	*				
30	*	直口壺	7.4			1/3	ロクロ	56	須恵	*	13.2	6.0	3.8	1/3	*				
B S B 2 (22個)										B S B 5 (22個)									
31	須恵	坏	12.6	6.1	3.7	1/3	底糸切り	57	黒色	壺	13.2	7.2	2.6	*	*	・内外ヘラミガ			
32	土師	甕	21.7			1/4	ロクロ	58	土師	甕	24.5			1/4	ロクロ、外ヘラケズリ				
33	*	深鉢	37.0			1/3	内外カキメ	59	*	*	23.7			*	*	・内外カキメ			
34	須恵	細頭壺	22.2			1/4		60	*	*	21.2			*	*	・内ヘラナデ			
B S B 3 (22個)										B S B 6 (23個)									
35	須恵	坏	11.9			1/5		61	*	*	22.3			*	*	・外ヘラケズリ			
36	*	*		7.0		1/3	底糸切り	62	*	*	22.9			*	*				
37	土師	甕	21.6			1/4	ロクロ、外ヘラケズリ	63	*	*	24.2			*	*	・外ヘラケズリ			
B S B 4 (22個)										B S B 7 (22個)									
38	須恵	壺	19.0			1/5		64	須恵	坏	14.6	9.8	4.1	1/5	底糸切り				
39	*	坏	13.1	6.1	4.0	3/4	底糸切り	65	*	*	13.0			1/6					
40	*	高台坏	11.9	8.8	3.6	1/2	*	66	土師	小型甕		4.2		3/4					
B S B 5 (22個)										B S B 8 (22個)									
41	黒色	坏	12.6	5.5	4.1	完形	底糸切り	67	灰釉	甕	15.2	6.5	2.7	1/5					
42	*	*	13.6	5.8	3.7	*	*	68	土師	甕	21.8			1/4	ロクロ				
B S B 6 (23個)										B S B 9 (23個)									
43	土師	坏	13.0	6.2	3.5	1/4	底糸切り	69	*	*	21.9			1/3	*	・外カキメ・ヘラケズリ			
44	須恵	*	13.6	6.5	3.9	*	*	70	黒色	坏	12.8	5.7	4.6	5/6	底糸切り、内ヘラミガキ				
45	黒色	*	12.7	5.4	4.2	*	*	71	土師	甕	22.4			1/6	ロクロ、内カキメ				
46	土師	坏	12.5	5.7	3.9	*	*	72	*	*	22.0			*	*	・外ヘラケズリ			
47	*	*	13.6	6.5	3.9	*	*	A S B 14 (24個)											
48	須恵	*	12.7	5.4	4.2	*	*	73	黒色	坏	15.0			1/4					
49	黒色	*	12.5	5.7	3.9	*	*	A S B 15 (24個)											
50	土師	甕	21.5			*	ロクロ・内外ハケナデ	74	須恵	坏	13.0	5.9	4.0	1/2	底糸切り				
51	*	*	22.7			*	*	75	*	*	15.6	7.0	4.8	1/4	底回転ヘラケズリ、内ヘラミガキ				
52	*	*	24.2			*	*	76	*	*	12.8	6.2	3.8	1/3	底糸切り				
B S B 7 (22個)										B S B 10 (24個)									
43	土師	小型甕	11.3			1/3	ロクロ、口縁面取り	77	*	*	13.4	9.1	3.2	1/4	底ヘラケズリ				
B S B 8 (22個)										B S B 11 (24個)									
44	須恵	坏	11.7			1/6		78	土師	小型甕	12.4	6.0	11.7	1/3	底糸切り				
45	*	*		6.0		*	底糸切り	79	*	甕	22.8	3.7	30.8	3/4	ロクロ、外ヘラケズリ				
46	*	*						80	*	*	22.0			2/3	*	・内カキメ	*		

遺物観察表(2)

番号	種別	器種	法量(cm)			道存	特記事項	番号	種別	器種	法量(cm)			道存	特記事項				
			口径	底径	器高						口径	底径	器高						
A S B 16 (25個)										A S B 20 (25個)									
81	須恵	蓋	12.4	—	2.0	1/3		97	黒色	环	14.3	6.0	5.3	1/3	底ヘラケズリ、内ヘラミガキ				
82	*	*	13.0	—	2.5	1/4		98	須恵	*	11.7	5.8	3.6	*	底余切り				
83	*	环	13.8	6.0	4.1	1/3	底余切り	99	*	*	12.8	5.8	3.8	1/6	*				
84	*	*	14.2	7.6	3.9	*	*	100	*	夷					ママ 口縁波状文				
85	*	*	12.4	6.8	3.9	3/5	底ヘラケズリ	101	土師	*	20.2			1/4	ロクロ				
86	*	高台环	12.2	9.3	3.0	1/4	底余切り	102	*	*	22.4			1/6	*	外ヘラケズリ			
87	土師	夷	26.4			1/8	ロクロ、体部ヘラケズリ	A S B 22 (26個)											
88	須恵	*	31.0			*	口縁波状文	119	須恵	蓋	12.4			1/6					
89	*	鉢	13.6			1/4	ロクロ	120	*	环	13.4	5.6	3.1	1/3	底余切り				
A S B 17 (25個)										A S B 23 (25個)									
90	黒色	鉢	18.4	7.3	8.5	1/8	底回転ヘラケズリ	103	黒色	环		7.4		2/5	底回転ヘラケズリ、内ヘラミガキ				
91	土師	夷	20.2			1/3	ロクロ、体部ヘラケズリ	104	須恵	*	13.2			1/4					
92	*	*	19.4			*	外ヘラケズリ、内カキメ	105	*	*	13.4	6.2	3.9	2/3	底余切り				
A S B 18 (25個)										A S B 24 (26個)									
93	須恵	环	13.4	6.4	4.3	1/3	底余切り	122	須恵	环	12.6			1/6					
94	*	*	12.5	6.4	4.3	*	*	123	*	*	12.0	6.9	3.2	1/3	底余切り				
95	土師	夷	12.6				ロクロ	124	*	*	13.0			1/4					
96	*	*	22.0			1/3	*	外カキメ	125	黒色	皿	11.3	5.3	2.4	完形	内外ヘラミガキ			
A S B 19 (26個)										A S B 25 (27個)									
106	黒色	环	13.0	6.2	4.2	1/2	底余切り、内ヘラミガキ	126	土師	夷	16.2			1/4	ロクロ、外ヘラケズリ				
107	*	*	15.3	7.4	4.9	1/3	底回転ヘラケズリ、*	127	*	*	21.0			2/3	*	*			
108	須恵	*	11.2	6.6	3.6	*	底余切り	128	砂岩	砾石	長8.0~9.5, 厚3.7~3.0			ママ	一面のみ未使用	*			
109	*	*	13.0	7.2	3.8	1/4	*	C S B 25 (27個)											
110	*	*	12.4	6.8	3.6	1/3	*	129	黒色	环	13.4	5.3	4.5	完形	底回転ヘラケズリ、内ヘラミガキ				
111	*	*	14.0	7.5	4.3	*	*	130	*	*	13.8	6.6	3.8	*	底余切り、内ヘラミガキ				
112	*	*	14.3	7.0	4.3	1/2	*	131	*	*	15.7	5.8	4.7	1/3	*	*			
113	土師	夷	19.4			1/4	ロクロ、外ヘラケズリ	132	*	*	13.2	4.9	4.0	*	底縫刻	*			
114	*	*	23.4			*	内カキメ	133	*	*	15.4	6.1	4.7	2/3	*	*			
115	*	*	23.0			1/3	*	内カキメ	134	*	*	15.8	6.2	4.9	1/2	*	*		
116	*	*	24.8			1/7	*	外ヘラケズリ、内カキメ、口縁面取り	135	須恵	*	14.0	6.0	4.1	完形	*			
117	*	*		4.6		1/2	外ヘラケズリ	136	*	*	13.0	6.0	4.1	*	*				
118	*	*	*	4.6		1/3	*	137	土師	小型夷	11.1	6.4	10.9	2/3	*				

遺物観察表(3)

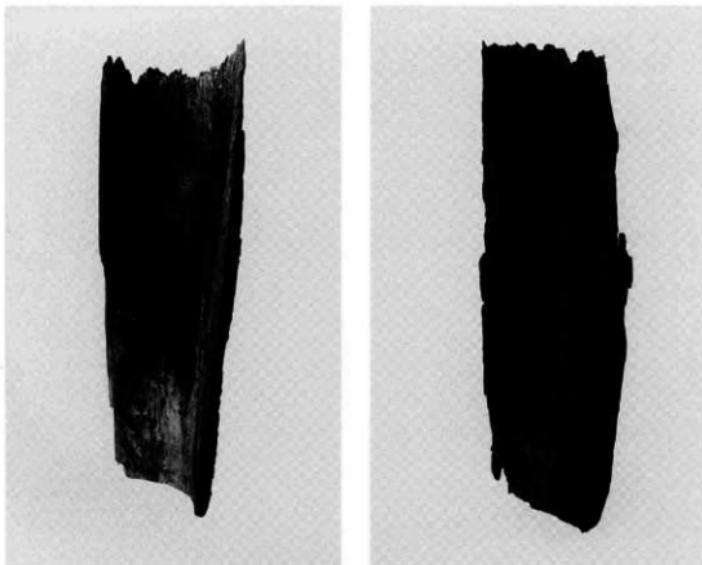
番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	特記事項	番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	特記事項							
			口径	底径	器高						口径	底径	器高									
138	土師	鉢	27.0	10.8	11.7	1/4	外ヘラナデ。内ヘラミガキ	166	須恵	壺	14.4	8.0	4.6	1/3	底余切り							
139	*	甕	24.7			1/10	ロクロ、内ハケナデ	A S B 38 (28個)														
140	*	*	24.7			1/5	*	*	167	黒色	壺	15.0	6.0	4.9	1/4	底回転ヘラケズリ						
C S B 28 (27個)																A S K 7 (28個)						
141	土師	壺	13.5	6.8	3.2	1/4	底余切り	168	須恵	壺	13.4	6.7	4.0	1/3	底余切り							
142	須恵	高台壺	16.4	12.0	3.7	1/3	*	C S K 15 (28個)														
143	土師	甕	21.6			*	ロクロ、外ハケナデ	169	須恵	壺	14.0	6.8	3.8	1/3	底余切り							
144	*	*		3.0		1/8	外ヘラケズリ	C S D 21 (28個)														
145	*	*	22.8			1/6	ロクロ、口縁面取り	170	黒色	壺	12.6	7.6	4.0	1/3	底回転ヘラケズリ、内ヘラミガキ							
A S B 30 (28個)																171 *	*	12.7	7.6	3.9	*	*
150	土師	甕	22.8			1/7	外ヘラケズリ、内カキヌ	172	須恵	*	12.4	6.5	3.5	1/4	底余切り							
A S B 32 (27個)																173 *	*	13.2	7.2	4.1	*	*
146	須恵	壺	12.8	6.2	3.8	2/3	底余切り	174	*	*	12.2	6.6	3.5	1/5	底ヘラケズリ							
147	*	*	13.2	6.6	4.0	1/4	*	175	*	*	14.4	7.6	3.4	1/3	*							
148	土師	小型甕		6.2		2/3	*	176	*	高台壺	11.8	7.6	3.9	1/5	底余切り							
149	*	*	13.0			1/3	ロクロ	177	*	小型甕	6.7	5.9	5.2	1/3	底ヘラケズリ							
A S B 33 (28個)																178 土師 甕 14.4 1/4 ロクロ、外ヘラケズリ						
151	須恵	壺	12.7	7.2	4.0	1/4	底余切り	179	銅	蓋	縦2.2・横2.4・厚0.1			ママ	四隅鋸							
152	黒色	椀		6.0		1/3	内ヘラミガキ	C S D 22 (29個)														
153	灰釉	*		8.6		*		180	須恵	蓋				ママ								
154	土師	甕	21.0			*	ロクロ	181	*	壺	12.6	6.2	3.7	1/3	底余切り							
155	*	*	23.2			1/8	*	182	*	*	13.8	7.0	4.0	1/2	底ヘラケズリ							
A S B 34 (28個)																183 *	*	12.7	6.2	4.1	1/3	底余切り
156	須恵	蓋	13.7			1/6		184	*	*	14.1	7.0	3.9	2/5	底ヘラケズリ							
157	*	壺	12.7	6.9	3.5	1/4	底余切り	185	*	高台壺	14.6	10.0	4.0	1/4	底回転ヘラケズリ							
158	*	*	13.4	6.1	3.3	1/3	*	186	*	鉢	30.0			1/7	外タタキメ、内當て具痕							
159	*	*	13.0	6.4	4.7	2/3	*	187	土師	甕	16.4			1/6	ロクロ							
160	*	高台壺	10.3					C S D 23 (29個)														
161	土師	甕	20.4			1/6	ロクロ、内カキメ	188	須恵	壺	13.8	8.6	3.3	完形	底ヘラケズリ							
A S B 35 (28個)																189 土師 甕 14.7 1/5 ロクロ、口縁面取り						
162	黒色	鉢	17.0	6.7	7.3	1/2	底回転ヘラケズリ、内ヘラミガキ	190	*	鉢	31.4			1/4	内外ハケナデ							
163	須恵	壺	14.4	7.2	4.1	1/3	底余切り	C S D 24 (29個)														
164	*	*	13.0	7.6	4.2	1/4	*	191	須恵	壺	13.6			1/6								
165	*	*	12.2			1/3		192	*	*		7.2		*	底余切り							

遺物観察表(4)

番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	特記事項	番号	種別	器種	法量(cm)			遺存	特記事項		
			口径	底径	器高						口径	底径	器高				
193	土師	甕	20.6		1/4	ロクロ、外ヘラケズリ	AS K12 (井戸址) (30・31箇本製品)	210	挽物	皿	21.2	17.0	1.7	完形	ケヤキ柾目、刻字		
AS D25 (29箇)										211	*	*	16.8	14.0	1.9	*	*
194	須恵	坏	12.7	7.1	3.6	1/2 底糸切り		212	*	*					ママ	*	
195	*	*	13.0	6.1	3.2	*	*	213	*	*	16.8	13.0	1.9	1/3	*		
196	*	*	13.0	6.5	3.7	*	*	214	*	*					1/6	*	
197	*	高台坏	11.4	7.9	4.0	1/4 底回転ヘラケズリ		215	*	*					ママ	*	
検出面 (29箇)										216	*	*				ママ	
198	黒色	坏	12.6	8.0	3.8	完形 底回転ヘラケズリ、 内ヘラミガキ		217	*	*					*	火箸焼	
199	*	*	16.0	6.8	6.5	1/3 *	*	218	曲物	底板					*	ヒノキ柾目、焼印?	
200	*	*	18.2	7.6	6.4	3/4 *	*	219	挽物	皿	20.0	16.0	1.3	1/2	ケヤキ柾目		
201	*	*	13.4	5.6	5.0	1/4 底糸切り、*		220	*	*	19.3	14.7	1.4	*	*		
202	須恵	*	13.1	7.5	3.6	1/3 *		221	*	*	18.6	14.3	2.2	1/6	*		
203	*	*	13.6	6.4	4.2	*		222	*	*	20.7	17.0	2.0	完形	*		
204	黒色	*	13.2	6.1	4.2	完形 底回転ヘラケズリ、内ヘ ラミガキ		223	*	*	19.7	16.0	1.6	1/6	*		
205	須恵	*	12.4	6.1	3.1	1/2 底糸切り		224	*	*	19.4	16.0	1.9	3/4	*		
206	*	*	13.8	7.0	3.9	1/3 *		225	*	*	18.6	14.6	1.8	1/4	*		
207	*	高台坏	13.6	8.0	3.9	*		226	*	*	21.0	18.4	1.8	1/6	*		
208	*	*	15.9	6.8	9.2	2/3 底糸切り		227	*	*	20.2	15.8	2.1	1/2	*		
209	土師	甕	23.4			1/6 ロクロ、外カキメ、内ハ ケナデ		228	*	*	19.2	15.0	1.7	1/3	*		
AS K12 (井戸址) (30箇上器)										229	*	*	21.8	19.6	1.4	1/6	*
245	黒色	坏	15.4	5.9	5.1	1/2 底回転ヘラケズリ、内ヘ ラミガキ、墨書き(人名?) 底擦剥		230	*	*	20.2	16.5	1.3	1/3	*		
246	須恵	*	12.8	5.0	4.0	1/4 底糸切り		231	*	*					16.2	3/4	
247	*	*	13.4	5.6	3.4	5/6 *		232	*	*	17.8	15.0	2.0	1/6	*		
248	*	*	12.3	6.2	3.6	1/2 *		233	*	*	15.6	13.0	1.0	1/6	*		
249	須恵	甕	8.7			1/4		234	*	*	16.5	15.8	1.0	*	*		
AS K22 (井戸址) (32箇土器他)										235	*	*	18.7	15.5	1.3	3/4	*
263	黒色	坏	13.4	4.6	3.7	1/3 底糸切り、内ヘラミガキ、 墨書き		236	*	*	17.2	12.0	1.7	1/6	*		
264	*	*	12.8			1/4 *	*	237	*	*	17.7	13.8	1.9	1/2	*		
265	*	*	12.7	5.0	4.3	1/3 *	*	238	*	*	17.0	14.8	1.3	1/4	*		
266	*	*	13.7	5.9	4.5	*	*	239	*	*	17.1	13.6	1.7	*	*		
267	*	*				ママ 内ヘラミガキ、墨書き		240	*	*	17.5	14.0	2.1	完形	*		
268	*	*	14.0			1/6 *		241	*	*	15.8	12.5	1.9	*	*		
269	土	羽口	外径6.6-孔径3.0					242	*	*	16.0	12.5	1.6	1/2	*		

遺物観察表(5)

番号	種別	器種	法量(cm)	特記事項	番号	種別	器種	法量(cm)	特記事項
243	木	桿	長8.6・幅3.2・厚0.5 ~0.15	イスノキ	A S K22 (井戸址) (32個)				
244	木	棒	長(11.2)・径1.3	先端削り	270	木	板	長(50.0)・幅(43)・ 厚3.4	カツラ
250	曲物	底板	径17.2・厚0.7~0.5	ヒノキ	271	*	*	長(42)・幅(47)・厚 5.0~2.6	*
251	*	*	径16.7~15.7・厚1.0~ 0.8	*	272	*	*	長(43)・幅32・厚1.6	
252	*	*	径15.1~14.2・厚0.8~ 0.5	*	273	*	柱?	長(42)・幅44~36	モミ
253	*	*	径20.3~19.8・厚1.0~ 0.9	*	274	曲物	側板	径14.0・高8.7・厚0.3 ~0.25	ヒノキ。山桜皮張り
254	*	*	径18.7~17.5・厚0.8~ 0.6	*		底板	径13.3・厚0.9~0.4		
255	*	*	径14.2・厚0.7~0.5	*	275	側板	径13.1・厚0.3~0.2	*	山桜皮張り
256	*	*	径14.8・厚0.7	*		*	蓋	幅2.0	
257	*	*	径12.0・厚0.8~0.7	*	A S D24 (32個)				
258	*	*	径16.8・厚6.~0.5	*・側板受部	276	曲物	底板	径16.9~16.1・厚0.7~ 0.5	ヒノキ
259	*	*	径11.6・厚0.7~0.5	*					
260	*	*	径20.6・厚0.8~0.7	*・側板受部					
261	*	*	厚0.9~0.8	* * *					
262	木	板	長19.5・幅0.3・厚0.8 ~0.7						



A S K12半截丸太井筒 (長約170cm・径56cm・厚9cm)

B S B 1



29



30

B S B 2

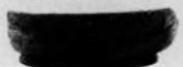


31

B S B 4



39



40

B S B 6



48



49

B S B 9



53



55

A S B 11



|



72

A S B 15



74



75



76



79

A S B 18



93



94

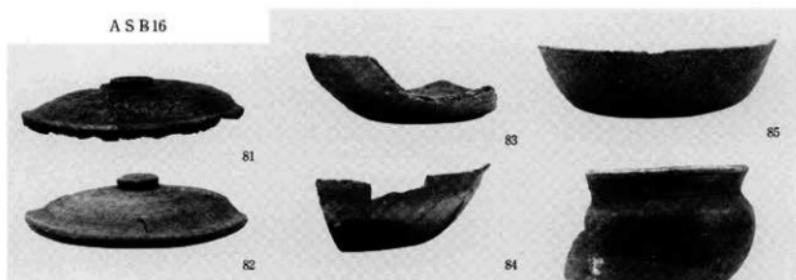


78

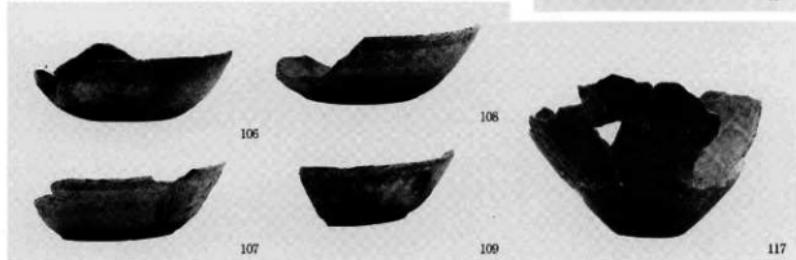


80

A S B16

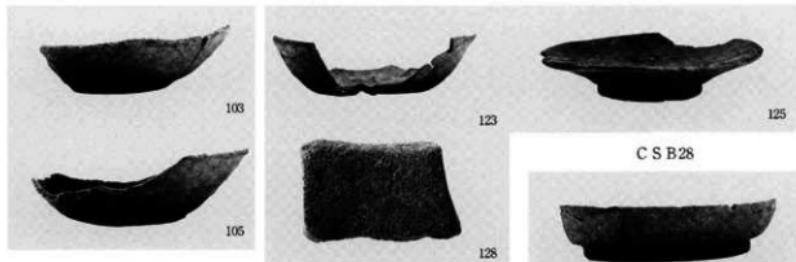


A S B19

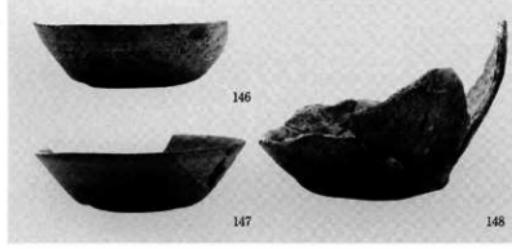


A S B23

A S B24



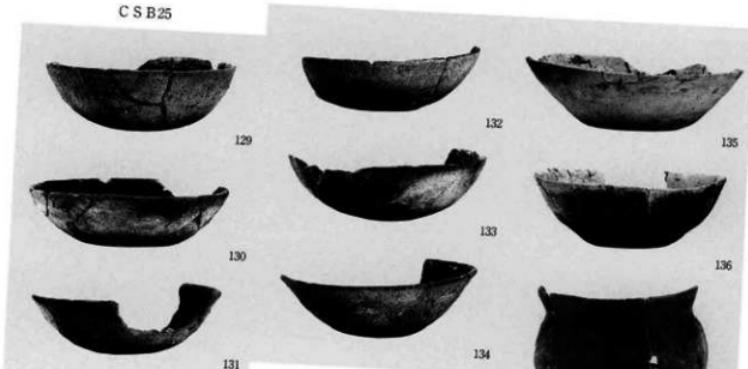
A S B32



C S B28



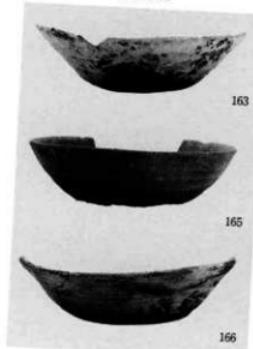
C S B25



A S B33



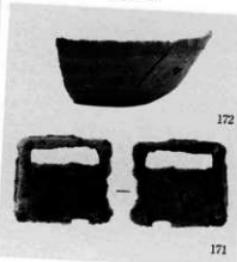
A S B36



A S B34



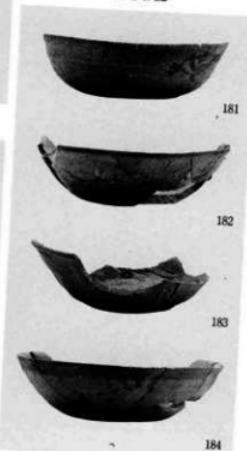
C S D21



C S K15



C S D22



C S D23



188



189

横出面



204



205



200



206

A S K12(1)



210



212



211



213



214



215



217



218



216



219



220



221



222



223

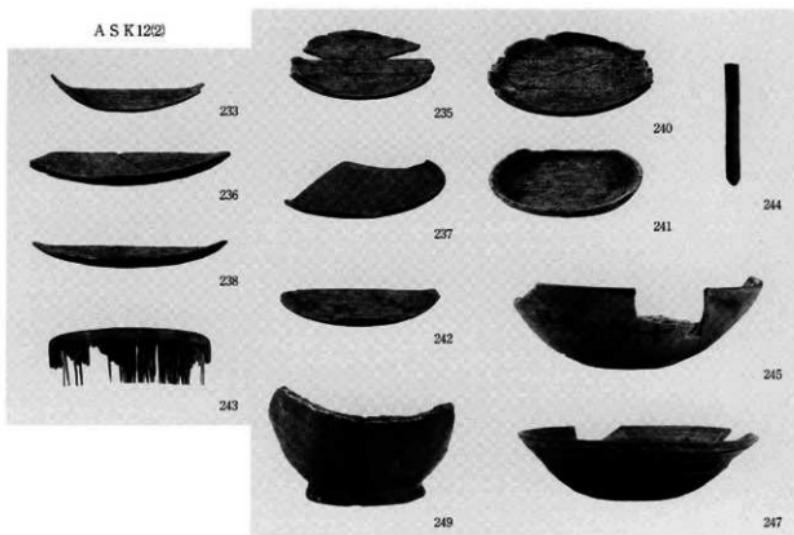


224

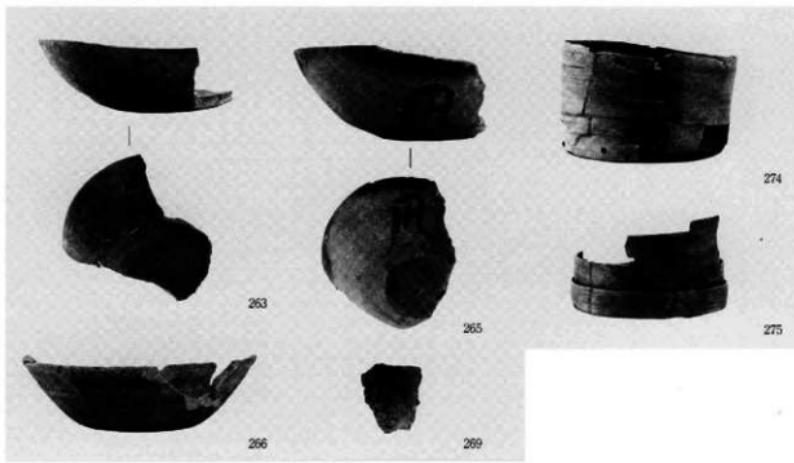


225

A S K12[2]



A S K22



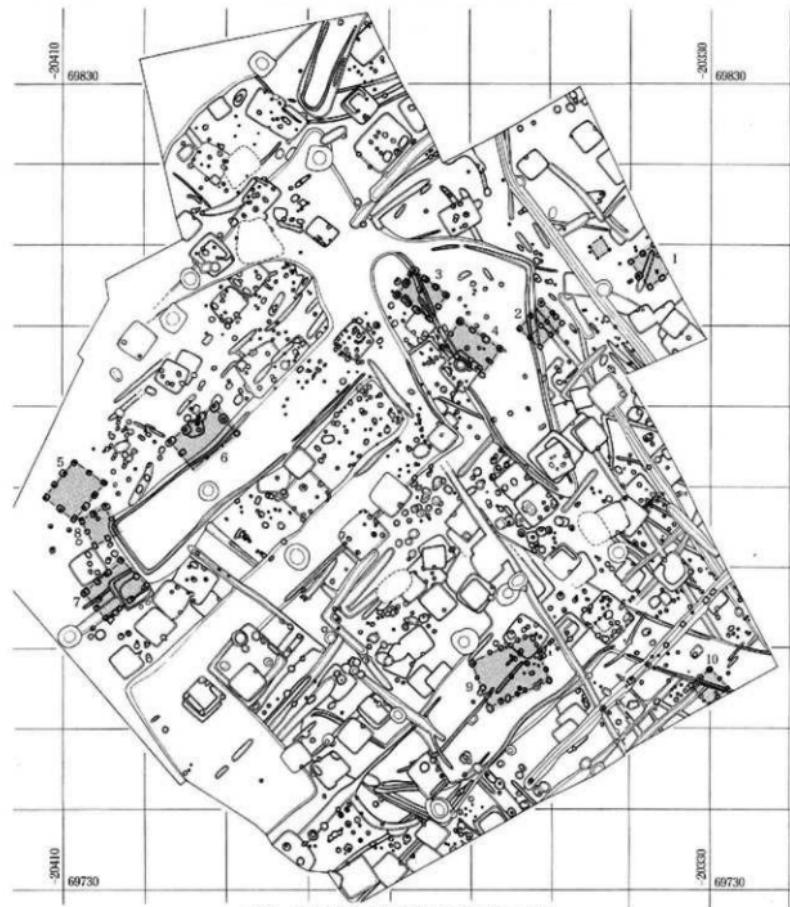
### 3 平安時代の遺構と遺物（D調査区）

各種の遺構は調査区全体に展開しているが、西端では希薄になり、遺跡の西側の限界を示しているといえよう。住居址の分布は調査地の北側ではA調査区と同様な密度をもって展開しており、南側ではさらに密集度を増し、重複関係にあるものが顕著にみられるようになる。大溝のS D 8・9・22が存在する部分において住居址があまり認められないのはこの溝址により破壊され消滅した可能性が高い。番号を付した住居址はD調査区だけで101軒にのぼる。この他にも住居址状の掘り込みが20カ所以上みられ、未調査区分を含めると100数十軒におよぶも



33図 D調査区住居址分布図（1：600）

のと推定される。これらの住居址の形態は多岐にわたっているが、基本形態は隅丸方形または隅丸長方形を呈するものである。長方形態の住居址は主軸より対軸規模が大きいものが多い。規模に関しては S B 94 の主軸 7.7m・対軸 7.1m を最大にして、主軸規模が 2 m 台が S B 7・12・21・23・36・46・72・75・76 とすくなく存在する。多くは小型住居址に属する一辺 3 ~ 5 m 内に集中する。5 m 台以上の大型のものは S B 13・31・51・52・64・81・94 の 101 軒中 7 軒あるにすぎない。カマドは検出した 101 軒の住居址のうち 67 軒から確認されている。形態が判明するものは両袖形を呈するもの 23 軒あり、石芯（石組）を伴うものが 2 軒ある。この他壁外に構築された突出形のものが S B 12 にみられ、両袖構築石材が残存していた。しかし、これらは完存していたわけではなく住居廢棄の際破壊を受けている。ほとんどの住居址は火床を示す焼土および焼土塊が残存していたにすぎない。A・B・



34図 D調査区掘立柱建物址分布図（1：600）